

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	財 務 管 理 論 I (Financial Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 財 務 管 理 論 I で は 、 財 務 環 境 、 財 務 制 度 、 財 務 管 理 と 企 業 経 営 、 資 本 運 用 の 新 た な 動 き に つ い て 解 説 す る 。 具 体 的 に は 、 情 報 革 命 、 機 関 投 資 家 、 コ ー ポ レ ー ト ・ ガ バ ナ ン ス 、 証 券 市 場 、 財 務 分 析 、 利 益 管 理 、 リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト 、 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 管 理 等 を 解 説 す る 。									
授 業 目 標 : 財 務 管 理 論 I お よ び 次 の 財 務 管 理 論 II は 、 最 新 の 財 務 制 度 を 取 り 扱 い つ つ 、 現 代 の 財 務 環 境 お よ び 財 務 管 理 の 意 義 か ら 考 察 を 始 め て 、 財 務 管 理 論 の 内 容 を 全 般 的 に 理 解 し 、 現 代 の 企 業 に 対 す る 考 え 方 お よ び 最 新 の 財 務 管 理 論 の 考 え 方 を 理 解 す る こ と を 目 標 と し て い る 。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	財 務 環 境 の 問 題 点 と 株 主 価 値 経 営 の 破 綻 株 主 価 値 経 営 の 意 義 と 問 題 点 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	環 境 問 題 と は 環 境 問 題 の 軌 跡 と 新 し い 資 本 概 念 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	貧 困 と 格 差 実 体 経 済 と 金 融 経 済 の 乖 離 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	情 報 革 命 デ ジ タ ル ト ラ ン ス フ ォ ー メ ー シ ョ ン (DX) を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	機 関 投 資 家 ESG 投 資 と 機 関 投 資 家 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	コ ー ポ レ ー ト ・ ガ バ ナ ン ス コ ー ポ レ ー ト ・ ガ バ ナ ン ス の 方 法 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	持 株 会 社 制 度 の 導 入 持 株 会 社 に 期 待 さ れ る 効 果 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	証 券 市 場 有 価 証 券 と 証 券 市 場 お よ び そ の 役 割 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	デ ィ ス ク ロ ー ジ ャ ー と 財 務 分 析 財 務 諸 表 を 用 い た 財 務 分 析 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	利 益 管 理 と EVA EVA の 求 め 方 と 投 下 資 本 利 益 率 (ROIC) を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト の プ ロ セ ス と 戦 略 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	運 転 資 本 管 理 と 設 備 資 本 管 理 資 本 管 理 の 重 要 性 と そ の 内 容 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 管 理 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー と 企 業 価 値 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	株 価 と 投 資 評 価 正 味 現 在 価 値 と 投 資 の 評 価 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	総 括 こ れ ま で の 財 務 管 理 論 の 内 容 を 総 復 習 す る 。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
教 本 : 鳥 居 陽 介 編 『 テ キ ス ト 財 務 管 理 論 (第 6 版) 』 中 央 経 済 社					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 毎 回 提 出 の レ ポ ー ト で 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : フ ァ イ ナ ン ス の 基 礎 を 身 に 付 け て お く こ と 。 日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら ない こ と 。									
オ フ ィ ス ア ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	財 務 管 理 論 Ⅱ （ Financial Management Ⅱ ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	財 務 管 理 論 Ⅰ 会 計 学 Ⅰ ・ Ⅱ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 ： 財 務 管 理 論 Ⅱ で は 、 資 金 調 達 の 新 た な 動 き 、 財 務 戦 略 、 財 務 管 理 の 新 展 開 に つ い て 解 説 す る 。 具 体 的 に は 、 銀 行 業 の 発 展 と 今 日 的 課 題 、 今 後 の 証 券 化 金 融 市 場 の 行 方 、 資 本 政 策 と 自 社 株 取 得 、 知 的 財 産 、 デ リ バ テ ィ ブ 、 ESG 投 資 、 こ れ か ら の 財 務 管 理 等 を 解 説 す る 。									
授 業 目 標 ： 財 務 管 理 論 Ⅱ お よ び 前 の 財 務 管 理 論 Ⅰ は 、 最 新 の 財 務 制 度 を 取 り 扱 い つ つ 、 現 代 の 財 務 環 境 お よ び 財 務 管 理 の 意 義 か ら 考 察 を 始 め て 、 財 務 管 理 論 の 内 容 を 全 般 的 に 理 解 し 、 現 代 の 企 業 に 対 す る 考 え 方 お よ び 最 新 の 財 務 管 理 論 の 考 え 方 を 理 解 す る こ と を 目 標 と し て い る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 （ 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	財 務 管 理 論 Ⅱ の 概 要 説 明 こ れ か ら の 講 義 内 容 の 概 要 を 説 明 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	借 入 金 の 調 達 借 入 金 の 形 態 と BIS 規 制 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	銀 行 業 の 発 展 と 今 日 的 課 題 フ ァ ン ド 化 ・ 情 報 化 を 進 め る 銀 行 経 営 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	今 後 の 証 券 化 商 品 市 場 の 行 方 証 券 化 商 品 の 意 味 と 証 券 化 市 場 の 行 方 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	社 債 と 格 付 け 社 債 の 意 味 と 債 券 の 格 付 け を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	CP と MTN CP ・ MTN の 意 味 と 最 近 の 動 向 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	資 本 政 策 と 自 社 株 取 得 資 本 政 策 の 意 味 と 株 主 還 元 政 策 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	M&A M&A の 意 味 と 財 務 上 の 考 慮 点 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	知 的 財 産 知 的 財 産 戦 略 の 意 味 と そ の 焦 点 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	デ リ バ テ ィ ブ デ リ バ テ ィ ブ の 意 味 と 財 務 の 関 係 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	新 た な 中 小 企 業 経 営 新 し い 中 小 企 業 財 務 の 動 き を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	新 ベ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス と ク ラ ウ ド フ ァ イ ン デ ィ ン グ 新 ベ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス の 資 金 調 達 の 特 徴 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	ESG 投 資 、 SDGs と 企 業 財 務 ESG 情 報 開 示 の 必 要 性 と 企 業 財 務 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	こ れ か ら の 財 務 管 理 ESG 、 SDGs と 社 会 的 価 値 の 追 求 を 解 説 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	総 括 こ れ ま で の 財 務 管 理 論 の 内 容 を 総 復 習 す る 。					事 前 ： テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 ： テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
教 本 ： 鳥 居 陽 介 編 『 テ キ ス ト 財 務 管 理 論 （ 第 6 版 ） 』 中 央 経 済 社					参 考 文 献 ：				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 ： 毎 回 提 出 の レ ポ ー ト で 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス ： フ ァ イ ナ ン ス の 基 礎 を 身 に 付 け て お く こ と 。 日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら ない こ と 。									
オ フ ィ ス ア ー ： 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	財 務 諸 表 論 (Financial Accounting)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 企業会計は、財務会計と管理会計とに分類できる。中でも、財務会計は、企業外の利害関係者に対して財務諸表を公表することを目的とする。財務諸表論では、財務会計を中心に財務諸表の特徴およびそれにかかる原則等について学修する。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。									
授 業 目 標： 財務諸表に関わる知識およびその活用方法を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	財務諸表 財務諸表の特徴について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
2	会計情報 会計情報が持つ特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
3	貸借対照表 貸借対照表の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
4	損益計算書 損益計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
5	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
6	株主資本等変動計算書 株主資本等変動計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
7	財務諸表の関係性 それぞれの財務諸表同士の関係性について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
8	損益計算 1（損益計算方法としての財産法） 損益計算としての財産法の特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
9	損益計算 2（損益計算方法としての損益法） 損益計算としての財産法の特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
10	会計利益観 1（収益費用観の基本的特質） 収益費用観の基本的な特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
11	会計利益観 2（資産負債観の基本的特質） 資産負債観の基本的な特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
12	会計利益観 3（会計利益観としての財産法） 会計利益観として捉えた財産法について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
13	会計利益観 4（会計利益観としての損益法） 会計利益観として捉えた損益法について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
14	会計利益観 5（会計利益観と損益計算） 会計利益観と損益計算の関係性について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
15	問題演習 授業内容について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90 分	
教 本： 資料を配布する。					参 考 文 献： 適宜、指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 試験（100％）で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 念のため電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 概 論 (Occupational Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進める。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、「安全」と「リスク」の定義、リーダーシップと生産効率、及び事故防止に向けた危険感受性訓練法等である。授業形態は講義を中心としますが討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授 業 目 標 : ①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	ミンスターバークに始まる産業心理学の発展・展開を産業心理学史Ⅰとして学ぶ。その中で特に重要であるテイラーを取り上げ、彼が主張した科学的管理法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	産業心理学史Ⅱとして、産業心理学を大きく飛躍させる契機となった「ホーソン実験」を取り上げ、その後の人事相談制度が開設されるまでのいきさつを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をととは何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、評価実習 30 分、PBL 20 分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講 義 30 分、実 験 40分、PBL 20分	
11	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	リーダーシップ研究を概観し、またレヴィンらの実験手法を伴うリーダーシップ研究の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	代表的なリーダーシップ理論である「PM 理論」と「マネジリアルグリッド理論」を学び、その意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法（危険感受性訓練法）を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 授業内で指示	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	産業心理学概論（Occupational Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 20 世紀の世紀末、バブル景気の終焉、大手企業としても倒産等がある。人生 100 歳時代でのライフスタイルの変化、ファミレスでは猫型ロボットが料理を運び、society 5.0 でのロボット化、人工知能の進化が進んでいる。その産業領域での心理学である。									
授業目標： ネット社会でのクラウドの範囲は世界に及ぶ。ウラウド体験は心での広大な未知の無意識との対話のようだ。「感動」「共感」として顧客と従業員及び従業員同士での共有である。今日での産業領域で求められる心理学の感触を深めたい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人生 100 年時代のマルチステージライフと Society 5.0 の産業構造）					事前：組織内ならではの心理 事後：マルチステージライフ時代		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
2	企業「PDCA」サイクルでの「計画」と「実践」の関係 ーストーン・スプーン物語とマーケティングー					事前：偶然体験を振り返る。 事後：「計画・実践」と偶然		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
3	創発するマーケティング ー「メディアの展開」「ハイ・コンセプト」「フラット化」ー					事前：企画の実現へ過程 事後：経営者と顧客の関係		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
4	創発するマーケティング（求められる消費者・企業者関係「ターゲットからプレイヤー」等）					事前：成功企業の取り組み 事後：今日の職場の変化		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
5	就労現場で働く無意識のメカニズム（文脈効果、システム正当化理論、認知的不協和理論等）					事前：心理学で関心ある事項 事後：日常から振り返る		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
6	組織集団の組織集団でのポジティブな側面とネガティブな側面、無意識からの影響					事前：働きやすい職場 事後：集団内での無意識体験		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
7	ワークパーソナリティ（D. スーパーのライフキャリアの虹、E.H. シャインのキャリアアンカー）					事前：学校体験で役に立そうなこと 事後：支えるキャリアアンカー		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
8	ワークパーソナリティ（J.I. ホランドの VPI:職業選択にみるパーソナリティ、職業興味検査の体験）					事前：自身の性格を活かす 事後：職業興味検査からの気づき		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
9	リーダーシップの代表的な理論ー「PM 理論」「SL 理論」等の理解					事前：職場での理想の上司とは… 事後：働く現場でのリーダーシップ		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
10	リーダーシップの代表的な理論ー「マネジメント・グリッド理論」等の理解					事前：リーダーシップへの疑問点 事後：対比的にリーダー論を語れる		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
11	ライフサイクル論とワーキングライフ					事前：中年期以降の自身を創造 事後：ライフサイクル論と自己実現		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
12	産業領域でのメンタルヘルスー働く我が国での制度面の変遷ー					事前：職場ストレスの所在場面 事後：今日の安全衛生法		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
13	産業領域でのメンタルヘルスー働く我が国での対策ー					事前：職場ストレスに備える体験 事後：現状のストレス対策を説明		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
14	ダイバーシティ（多様性）時代の産業界					事前：ダイバーシティと就労 事後：障害者雇用の実際		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
15	まとめ					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60 分、小レポート・ディスカッション 30 分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（20%）、小レポート（40%）、学期末テスト（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ウラウド時代の産業構造の中、「君はどう生きるか」									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	産業政策とイノベーション（Industrial Policy and Innovation）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	グローバル経済・経営ガバナンス、基礎科目として経済学、政治学等の関連科目を履修していること。							
	そ の 他	担当教員の国際関係の科目を「その他の科目」として履修していることが望ましい。							
授業概要： 昨今は経済安全保障の枠組みの中で産業政策が語られるようになりました。デジタル社会における産業政策の特徴は、半導体やバッテリー等の戦略的産業への積極的な支援策です。イノベーションのために産業政策は不可欠ですが、その課題も多くあります。本講義では各国の産業政策の歴史やその内容を振り返りながら、イノベーションに必要な産業政策の光と影を学びます。									
授業目標： ①産業政策の歴史ついて理解する。 ②デジタル社会での産業政策の功罪を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の全容を知る。					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
2	産業政策とは何か：産業政策、イノベーションといった基本概念を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
3	日本の産業政策の歴史①：殖産興業から太平洋戦争までの日本の産業政策の歴史を追う。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
4	日本の産業政策の歴史②：戦後日本の産業政策をリードした通産省（現経産省）（MITI）の政策とその海外の評価を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
5	日本の産業政策の歴史③：MITI から METI（経産省）への移行の理由とその後の産業政策の歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
6	アメリカの産業政策の歴史：技術開発、イノベーションへの国家の関わりに積極的な米国の産業政策の歴史を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
7	イギリスの産業政策の歴史：米国と対照的に国家の関わりを避ける英国の産業政策の考え方、歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
8	2010 年代後半からの「経済安全保障」言説と政策：世界の主要国で唱導される経済安全保障政策の動きを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
9	アメリカ、欧州、豪州、中国の経済安全保障としての産業政策：諸外国の経済安全保障政策の概要を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
10	日本の経済安全保障としての産業政策：日本の経済安全保障としての産業政策を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
11	日本の半導体政策の事例①：日本における半導体への産業政策の経緯と最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
12	日本の半導体政策の事例②：最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
13	日本のレアアース政策の事例：レアアース問題の所在とその日本における対応について学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
14	日本の産業政策の功罪：日本の産業政策はイノベーションを生むのか。その功罪について議論を進める。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
15	まとめ：講義全体を総括する。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
教本： 教材は毎回配布しますので購入は不要です。					参考文献： 講義で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加（積極的か否か。ただ出席するのではなく）とレポートで総合評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）									
学生へのアドバイス： 積極的に知識を付けたい皆さんの受講を希望します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	事故の法的責任論 (Legal Responsibility for Accidents)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	リスク危機マネジメント基礎論、法の性格と役割							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちの日常生活では、さまざまな事故に遭遇する。交通事故や契約上のトラブルなどがその代表であろう。そのような事故に遭遇した場合、どのような法律を基に当事者間の紛争を解決すればよいのかについて、①底流を流れる法理論の把握とともに、②実際に起きた紛争についてどのような判断がなされ、またどのような問題点をはらんでいるのかについて主体的に考える機会を提供する。									
授業目標： 1. 紛争の解決に向けた判断基準となる法概念を身につける。 2. 実社会で起きている紛争をもとに、論点と解決策を提示できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	大学生の法的立場を考える（導入）					事前：教本1章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	契約と消費者トラブル					事前：教本2章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	学生生活と法～学生生活における法トラブルについて考える					事前：教本3章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	働くことを考える					事前：教本4章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	就職活動で知っておきたい法律					事前：教本5章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	労働者の保護と法律					事前：教本6章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	結婚における法トラブル					事前：教本7章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	子どもの権利・子育てにおける法トラブル					事前：教本8章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	生活設計～お金にまつわる法トラブル					事前：教本9章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	犯罪と私たちの生活					事前：教本10章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	交通事故における法の適用					事前：教本11章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
12	公的医療保険・介護保険制度					事前：教本12章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
13	年金・相続における法トラブル					事前：教本13章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
14	民主主義とそのための仕組み					事前：教本14章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
15	市民社会と国際平和～開発・貧困における法の役割					事前：教本15章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教本： 森川幸一『新版大学生が知っておきたい生活のなかの法律』 慶應義塾大学出版会、2022年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（20％）、授業内での課題（30％）、期末試験（50％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自らの周りで起きる紛争について、なぜ起きたのか、どのような解決法があるのか、という視点を常に意識しながら受講して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	実践日本語トレーニングA（Practical Japanese Training A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「情報、知識、感情、意思」を相手とどのように共有すればビジネスにおけるコミュニケーションや、関係構築がスムーズにできるのかを学ぶ。具体的には、インターンシップや就職活動等で必要な社会人としての心構えや基本動作、接遇・電話応対等におけるビジネス会話、メールやビジネス文書の作成等、様々な知識を、グループワーク等を通じて、実践的に身につけていく。									
授業目標： ①ビジネスの場面にふさわしいマナー、敬語の用法、表現技法等の知識を有し、適切に用いることができる。 ②メールやビジネス文書作成に必要な基本事項、表現技法等の知識を有し、実際に作成することができる。 ③秘書検定のマナー接遇、技能の分野の問題を正しく答えられるような知識を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 第一印象の重要性（おしゃれとみだしなみ）					事前：シラバスを読む 事後：配付資料を読む		講義(60分) 意見出し・演習(30分)	
2	ビジネスコミュニケーション（社会人基礎力 話し方・聴き方）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
3	挨拶（おじぎの分類） 基本動作（立ち姿勢・座り姿勢）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
4	社内でのマナー（指示の受け方、報告のしかた ほうれんそう）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
5	ビジネス敬語の基本（敬語の用法の確認） ビジネス敬語 実践トレーニング（ロールプレイ）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
6	バイト敬語（会話スキットを視聴。よくないところを指摘、正しい言い方を考える）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
7	ビジネス敬語 実践トレーニング（ロールプレイ）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
8	電話のマナー① 電話を受ける 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
9	電話のマナー② 電話をかける 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
10	応接のマナー（来客対応 席次）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習(60分)	
11	ビジネスにおける文書の取り扱い（受取り・郵便発信等） ビジネスメール 書き方 実践トレーニング ノートPC持参					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成（次週提出）		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
12	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング（社内文書） ノートPC持参					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成（次週提出）		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
13	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング（社外文書） ノートPC持参					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
14	訪問のマナー 名刺交換のマナー 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)	
15	全体のまとめ					事前：質問事項の洗い出し 事後：なし		講義(50分)・演習(40分)	
教本：教材は、授業前に配布します。 『DVDで学べる人のビジネスマナー』西東社 『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社									
参考文献： 『ビジネス日本語 ①内定者編』凡人社 『ビジネス日本語 ②新入社員編』凡人社 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版社									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかどうかで評価します。 グループワーク等授業への取り組み姿勢（30%）、課題・提出物等（30%）、期末試験（40%）により総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネス会話・文書作成のスキルを、学生のうちから身につけておくと、就活の際、武器になります。毎回の予習復習をしっかりと行うことで着実にスキルが身につきますので、目標意識を明確にして取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	実践日本語トレーニング B（Practical Japanese Training B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会で通用し、ビジネスや研究の場で必須となる日本語力を身につけ、就職試験や就職後につながる実践的な日本語力を身につける。日本語検定 2、3 級の知識、秘書検定 2、3 級に出てくる日本語やビジネス関連の言葉を学んでいく。授業では、検定問題に解答するだけでなく、人に説明できるレベルまで理解を深めるため、担当者に日本語関連の専門用語について調べ、発表してもらうことも行う。									
授業目標： 1. 仕事や研究で必要な実践的な日本語力を身につける。 2. 就職後に日常的に使うことばを理解し、使用できる語彙を広げる。 3. 日本語検定 2、3 級、秘書検定 2、3 級（マナー接遇問題、一般知識問題）の問題を正しく解答できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 日本語検定、秘書検定について 秘書検定単語クイズ 次週の出題箇所の説明					事前：シラバスを読む 事後：なし		講義(60分) 演習(30分)	
2	秘書検定単語クイズ：敬語基本 接遇用語 語彙 言葉と言葉の関係					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
3	秘書検定単語クイズ：賀寿、六曜の用語、贈答用のマナー 語彙 類義語 対義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
4	秘書検定単語クイズ：葬儀に関する用語 言葉の意味 多義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
5	秘書検定単語クイズ：慶事、弔事と上書きと水引の用語 言葉の意味 慣用句 ことわざ 故事成語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
6	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ① 漢字 漢字熟語の構成					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
7	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ② 漢字 同音異義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
8	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われる略語 漢字 同音異字 同訓異字					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
9	秘書検定単語クイズ：企業経営組織の知識 漢字 四字熟語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
10	秘書検定単語クイズ：人事・労務の用語 表記 仮名づかい 送りがな					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)	
11	秘書検定単語クイズ：マーケティングの用語 文法 用言の活用と接続					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
12	秘書検定単語クイズ：会計・財務の用語 文法 可能動詞・受身と使役					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)	
13	秘書検定単語クイズ：税務の用語 文法 文のねじれ 接続語					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)	
14	秘書検定単語クイズ：金融の用語、印鑑の知識 文法 助詞 助動詞					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)	
15	全体のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義(20分) 演習(60分)	
教本：プリント教材を配布する 『ステップアップ日本語 中級』東京書籍 『らくらく合格秘書検定 2・3 級』翔泳社									
参考文献： 『ステップアップ日本語 上級』東京書籍									
成績評価の方法、評価基準： 発表担当、授業参加度等の授業態度（40%）、提出物（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	実用英語Ⅰ（Practical EnglishⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小倉 美知子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 読み、聴き、話し、書く能力をバランスよく育て、各自の専門や将来の職業に役立つ知識を習得し、英語力の向上を図る。									
授業目標： 話題を常に英語で考え、状況に応じて表現の仕方を変えて相手の理解を得る柔軟性を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	Introduction & Chapter 1				事前：教科書の contents を見ておくこと 事後：Chapter 1 の復習			授業の進め方の説明(45分)と 演習(45分)	
2	Chapters 2 & 3				事前：Chapters 2 & 3 の予習 事後：Chapters 2 & 3 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
3	Chapter 4				事前：Chapter 4 の予習 事後：Chapter 4 の復習			演習 (reading 45分と Q & A45分)	
4	Chapter 5				事前：Chapter 5 の予習 事後：Chapter 5 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
5	Chapter 6				事前：Chapter 6 の予習 事後：Chapter 6 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
6	Chapters 7 & 8				事前：Chapters 7 & 8 の予習 事後：Chapters 7 & 8 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
7	Chapter 9				事前：Chapter 9 の予習 事後：Chapter 9 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
8	Chapter 10				事前：Chapter 10 の予習 事後：Chapter 10 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
9	Chapters 11 & 12				事前：Chapters 11 & 12 の予習 事後：Chapters 11 & 12 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
10	Chapter 13				事前：Chapter 13 の予習 事後：Chapter 13 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
11	Chapters 14 & 15				事前：Chapters 14 & 15 の予習 事後：Chapters 14 & 15 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
12	Chapter 16				事前：Chapter 16 の予習 事後：Chapter 16 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
13	Chapter 17				事前：Chapter 17 の予習 事後：Chapter 17 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
14	Chapter 18				事前：Chapter 18 の予習 事後：Chapter 18 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
15	Chapters 19 & 20				事前：Chapters 19 & 20 の予習 事後：Chapters 19 & 20 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
教本： Grand Tour New Discoveries（Seibido, 2024）					参考文献： 授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語で考え、書き、話すこと。毎回簡単な質問を出すので、その答えを分かり易い英語で解答すること。									
オフィスアワー： できる限り授業後に質問を受け付ける。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	実用英語Ⅱ（Practical EnglishⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 倉 美 知 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 世界共通語としての英語を、各自の専門や将来の職業に役立つように習得し、英語力の向上を図る。									
授業目標： 話題を常に英語で考え、状況に応じて表現の仕方を変えて相手の理解を得る柔軟性を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	Introduction & Unit 1				事前：教科書の contents を見ておくこと 事後：Unit 1 の復習			授業の進め方の説明(45分)と 演習(45分)	
2	Unit 2				事前：Unit 2 の予習 事後：Unit 2 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
3	Unit 3				事前：Unit 3 の予習 事後：Unit 3 の復習			演習 (reading 45分と Q & A45分)	
4	Units 4 & 5				事前：Units 4 & 5 の予習 事後：Units 4 & 5 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
5	Unit 6				事前：Unit 6 の予習 事後：Unit 6 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
6	Units 7 & 8				事前：Units 7 & 8 の予習 事後：Units 7 & 8 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
7	Units 9 & 10				事前：Units 9 & 10 の予習 事後：Units 9 & 10 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
8	Unit 11				事前：Unit 11 の予習 事後：Unit 11 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
9	Unit 12				事前：Unit 12 の予習 事後：Unit 12 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
10	Units 13 & 14				事前：Units 13 & 14 の予習 事後：Units 13 & 14 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
11	Unit 15				事前：Unit 15 の予習 事後：Unit 15 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
12	Unit 16				事前：Unit 16 の予習 事後：Unit 16 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
13	Unit 17				事前：Unit 17 の予習 事後：Unit 17 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
14	Unit 18				事前：Unit 18 の予習 事後：Unit 18 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
15	Units 19 & 20				事前：Units 19 & 20 の予習 事後：Units 19 & 20 の復習			演習 (reading 45分と Q & A 45分)	
教本： <i>Our World, Our Stories</i> (Seibido, 2025)					参考文献： 授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語で考え、書き、話すこと。毎回簡単な質問を出すので、その答えを分かり易い英語で解答すること。									
オフィスアワー： できる限り授業後に質問を受け付ける。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	質的調査法（Qualitative Survey Methods）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 質的研究法とは、数値データを分析する量的研究法とは異なり、人の語りや記述などの言語データを分析する研究方法である。本講義では質的研究法の基本について、概論の講義と質的研究法を用いた研究論文により学び、その上で代表的な質的研究法のひとつである KJ 法を実際に体験する。									
授業目標： 質的研究法について理解し、代表的な質的研究法のひとつである KJ 法ができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	量的研究と質的研究					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	質的調査法を用いた研究論文紹介①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む		講義	
4	質的調査法を用いた研究論文紹介②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む		講義	
5	質的調査法を用いた研究論文を検索し、読み込む（グループワーク）					事前：資料確認・課題検討 事後：グループを決めて論文を読む		講義 40分、 グループワーク 50分	
6	論文の内容をまとめる（グループワーク）					事前：グループを決めて論文を読む 事後：発表資料作成		グループワーク 90分	
7	発表資料を作成する					事前：発表資料作成 事後：発表準備		グループワーク 90分	
8	発表会①					事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる		発表・討議 90分	
9	発表会②					事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる		発表・討議 90分	
10	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：KJ 法について調べておく 事後：データの検討		講義 40分、 グループワーク 50分	
11	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：データの検討 事後：発表資料作成		グループワーク 90分	
12	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：発表資料作成 事後：発表準備		グループワーク 90分	
13	発表会					事前：発表準備 事後：発表内容を振り返る		発表・討議 90分	
14	結果をレポートにまとめる					事前：発表内容を振り返る 事後：レポート作成		講義	
15	まとめ					事前：レポート作成 事後：理解の補完		講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に、適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 I (Private Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： ①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②契約の基本構造を説明できる。 ③意思表示の基本理論を説明できる。 ④私法における個人間の関係モデルを説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 私法の一般法としての民法典の構成について概説し、授業計画などについて説明する				事前：事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	私法とは何か、またその特質について説明する				事前：資料の予習 事後：私法の特徴をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	民法典の構造と民法典の構成を理解する				事前：民法の構成について調べる。 事後：民法典の体系について調べる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	民法財産法とは何か (1) 物権法の概要を中心に解説する				事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	民法財産法とは何か (2) 債権法の概要を中心に解説する				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	契約の主体 (1) 権利能力について説明する				事前：権利能力について調べる。 事後：権利能力の始期と終期、例外をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	契約の主体 (2) 権利能力・意思能力・行為能力とは何か、またこれらがどのような役割を果たしているのか理解する				事前：権利能力・意思能力・行為能力の関係を調べる。 事後：権利能力・意思能力・行為能力の関係をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	契約の主体 (3) 行為能力と成年後見制度につき、新しい成年後見制度が果たすべき目的などを理解する				事前：行為能力と成年後見制度を調べる。 事後：成年後見制度の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	意思表示 (1) 意思表示とは何か／心裡留保とは何かを解説する				事前：意思表示とは何かを調べる。 事後：心裡留保についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	意思表示 (2) 虚偽表示とは何かについて解説し、権利外観法理について解説する				事前：虚偽表示とは何かを調べる。 事後：権利外観法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	意思表示 (3) 虚偽表示における第三者の範囲／94条2項と権利外観法理の射程を理解する				事前：虚偽表示における第三者の範囲を調べる。 事後：94条2項と権利外観法理をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	意思表示 (4) 錯誤とは何かにつき新旧の錯誤法を解説する				事前：錯誤とは何かを調べる。 事後：錯誤法についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	意思表示 (5) 詐欺・強迫につき新規定を中心に解説する				事前：詐欺・強迫を調べる。 事後：詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	契約の拘束力、また契約が効力を失う場合（無効・取消し・解除）について解説する				事前：契約の無効・取消し・解除のちがいを調べる。 事後：契約の無効・取消し・解除をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ 意思表示理論についての総括と理解度を確認する				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30％）、定期試験（70％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：到達目標が達成できたかを評価する。 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 I（Private Law I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 私法（民法・商法）学び方について概説する。中心となるのは、民法総論となる。そして、商法の領域も見ることとする。日常生活の中での法、とりわけ、法類型の中での私法、財産取引を中心とする。									
授業目標： 財産法を中心とするが、資本主義経済社会の法としての視点から、私法、民法・商法への理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特徴（概要）を示し、私法を学んでいくうえでの心構え等を説明する。				事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、私法分野についての事前のチェックをする。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
2	私法の全体像を概観する。これから学習する個別問題を全体の中での位置確認に向けた指標とする。				事前：民法典、商法典、会社法典等の法典構成の確認をする。 事後：これから学ぶ範囲（私法領域）を確認し、ノートにまとめる			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
3	私権の構造を概観する。理解を深めるため、私法上の権利、公法上の権利を概説し、私権の種類に関し概観し、その概説等を行う。				事前：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認する。 事後：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
4	私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用、いわゆる民法（私法）の基本原則（民法第1条）について概説する。				事前：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認する。 事後：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
5	権利の主体および権利能力の取得、喪失について概説する。				事前：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認する。 事後：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
6	権利主体、その中での法人について概観する。具体的には、民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にしながら、法人一般についての理解を深める。				事前：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認する。 事後：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
7	私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について概観し、生活における役割等を考える。				事前：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について調べ、その働きを確認する。 事後：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）およびその働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
8	権利客体としての「物」について、概観する。具体的には、動産、不動産について概説し、権利変動を留意し、とりわけ、今日における取引実情を考慮し、権利客体に関する考察をする。				事前：権利客体としての物について調べ、かつ、今日における取引実情を概観し、権利客体一般に関する確認をする。 事後：権利客体としての物、かつ、今日における取引実情を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
9	人の能力（権利能力、意思能力、行為能力）について概観する。それを基礎に、権利の変動に触れつつ、法律行為について概説する。				事前：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認をする。 事後：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	

10	前回の講義を基礎にして、意思無能力制度、制限行為能力者制度について概観する。	事前：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認する。 事後：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
11	前回の講義を基礎にして、意思表示の欠缺および瑕疵について概観する。具体的に、心理留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・脅迫等について概説する。	事前：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をする。 事後：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をし、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
12	代理について概観する。法定代理及び任意代理に関する説明をし、任意代理を中心に概説する。	事前：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認等をする。 事後：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
13	表見代理について概観する。代理権授与表示による表見代理、代理権踰越による表見代理、代理権消滅後の表見代理について概説する。	事前：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認等をする。 事後：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
14	期限と条件について概観する。確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について概説する。	事前：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認等をする。 事後：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
15	時効について概観する。取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について概説する。	事前：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認をする。 事後：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
教本：「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	私法学Ⅱ（Private Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	法学／私法学Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： ①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②代理の基本構造を説明できる。 ③法律行為の内容と一般的有効要件を説明できる。 ④法人法制の基礎を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 権利能力・意思能力・行為能力・意思表示を振り返り、授業の進め方などについて説明する				事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	意思表示の復習 (1) 心裡留保／虚偽表示を復習し、理解を深める				事前：心裡留保、虚偽表示について復習する。 事後：権利外観法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	意思表示の復習 (2) 錯誤／詐欺・強迫を復習し、理解を深める				事前：錯誤、詐欺・強迫について復習する。 事後：錯誤、詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	代理 (1) 代理の法律関係を解説し、法的論点を理解する				事前：代理制度とは何かを調べる。 事後：代理の法律関係についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	代理 (2) 代理行為＝代理人と相手方との関係について説明し、代理の効果について理解を深める				事前：代理行為の有効性をめぐる問題を調べる。 事後：代理行為の有効性、その効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	代理 (3) 無権代理とは何か、無権代理人と取引した相手方はどのような手段をとることができるのかを解説する				事前：無権代理に関する民法のルールを調べる。 事後：無権代理の相手方がとりうる手段をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	代理 (4) 表見代理 (1) 代理権授与表示表見代理、代理権踰越の表見代理を中心に表見代理を解説する				事前：表見代理とは何かを調べる。 事後：109条と110条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	代理 (5) 表見代理 (2) 代理権消滅後の表見代理を中心に表見代理を解説する				事前：代理権消滅後の表見代理を調べる。 事後：110条と112条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	契約の有効性 契約が有効となる条件について解説し、理解を深める				事前：契約の一般的有効要件について調べる。 事後：契約の一般的有効要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	契約の効力発生時期について、条件・期限・期間を中心に解説する				事前：契約の条件と期限の種類と区別について調べる。 事後：契約の条件と期限、期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	時効 (1) 消滅時効とは何かを中心に解説し、時効の諸問題を検討する				事前：消滅時効とは何かについて調べる。 事後：消滅時効の論点を整理する。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	時効 (2) の効力の中断・停止、時効の効果、除斥期間を解説し、時効の理解を深める				事前：中断と停止について調べる。 事後：時効の効果と除斥期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	法人 (1) 法人総論 法人とは何か、法人制度をめぐる法的論点を解説する				事前：法人とは何かについて調べる。 事後：法人制度の基本枠組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	法人 (2) 社団と組合に違いがあるのか、また権利能力のない社団をめぐる法的諸問題を考える				事前：社団と組合は違うのかについて調べる。 事後：社団論についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	法人 (3) 一般法人の組織について検討し、法人制度の理解を深める				事前：一般法人の組織について調べる。 事後：一般法人の組織についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30％）、定期試験（70％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 Ⅱ (Private Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 Ⅰ (同 時 履 修 も 含 め、好 ま し い。)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 私 法 学 Ⅰ を 基 礎 と し、私 法 (民 法 ・ 商 法) 学 び 方 に つ い て 概 説 す る。中 心 と な る の は、民 法 総 論 と な る。そ し て、商 法 の 領 域 も 見 る こ と と す る。日 常 生 活 の 中 で の 法、と り わ け、法 類 型 の 中 で の 私 法、財 産 法、商 法 を 中 心 と す る が、最 後 に、家 族 法 に つ い て も 触 れ て い き た い。									
授 業 目 標： 私 法 学 Ⅰ を 基 礎 と し、財 産 法 を 中 心 と し、資 本 主 義 経 済 社 会 の 法 と し て の 視 点 か ら、私 法 (民 法 ・ 商 法) へ の 理 解 を 深 め る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	開 講 に あ た り、ガ イ ダ ン ス を 行 う。受 講 に お け る 約 束、テ ス ト、評 価 等 の 説 明 等 を 行 う。私 法 の 特 色 (概 要) を 示 し、私 法 学 Ⅱ を 学 ん で い く う え で の 心 構 え 等 を 説 明 す る。				事 前： 事 後：次 回 講 義 の た め の 準 備 六 法 ・ テ キ ス ト 等 の 購 入、私 法 分 野 に つ い て の 事 前 の チ ェ ッ ク を す る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
2	物 権 法 全 体 に つ い て 概 説 す る。具 体 的 に は、物 権 の 概 念、種 類 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：民 法 第 2 編 物 権 の 構 成 を 確 認 し、そ の 種 類 に つ い て 確 認 を す る。 事 後：民 法 第 2 編 物 権 の 構 成 を 確 認 し、そ の 種 類 に つ い て 確 認 を し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
3	物 権 変 動 に つ い て 概 説 す る。具 体 的 に、物 権 の 変 動 (取 得、喪 失、移 転 等) に つ い て 概 観 す る。				事 前：物 権 変 動 の 基 本 構 造 の 確 認、二 重 譲 渡、不 動 産 登 記 等 に つ い て 確 認 す る。 事 後：物 権 変 動 の 基 本 構 造 の 確 認、二 重 譲 渡、不 動 産 登 記 等 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
4	占 有 権、所 有 権 に つ い て 概 説 す る。占 有 権 の 概 要、占 有 権 の 効 力 等 に つ い て 概 観 す る。所 有 権 の 概 要、所 有 権 の 制 限 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：占 有 権 及 び 所 有 権 の 概 要 等 に つ い て 確 認 す る。 事 後：占 有 権 及 び 所 有 権 の 概 要 等 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
5	用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) に つ い て 概 観 す る。				事 前：用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
6	担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) に つ い て 概 観 す る。				事 前：担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
7	債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
8	債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 に つ い て 概 観 す る。				事 前：債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
9	契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
10	一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 に つ い て 概 観 す る。				事 前：一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	

11	商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等について概観する。	事前：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認する。 事後：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
12	会社、会社の種類、会社の機関等について概観する。	事前：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認する。 事後：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
13	有価証券、手形・小切手法を中心に概観する。	事前：有価証券、手形・小切手法の概要について確認する。 事後：有価証券、手形・小切手法の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
14	夫婦、親子、そして、親族について概観する。	事前：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認する。 事後：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
15	相続、遺言、祭祀承継等について概観する。	事前：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認する。 事後：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
教本：「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	児童家庭福祉（Child and Family Welfare）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高玉 和子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代における児童家庭福祉の意義を理解し、子どもや家庭に対する法制度や行財政、実施機関・施設、歴史的変遷などについて学習する。また子どもの人権について考え、国際社会や日本における子どもの人権擁護を理解し、少子化社会の現状に対応した施策や子育て支援など、保育士資格に必要な基礎的知識と最新情報を学んでいく。									
授業目標： 到達目標は以下の通りである。 1. 児童家庭福祉の意義や目的を理解できるようになる。 2. 歴史的変遷を経て現在の法制度等が成り立っていることを知り、現代社会の問題を理解できるようになる。 3. 子どもの基本的人権を保障する仕組みについて理解し、子どもの最善の利益を考えることができるようになる。 4. 子育て支援策を学び、子どもと家庭への支援の必要性を理解できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	子ども家庭福祉の目的・理念を学び、子どもとその家庭に対する支援の必要性について学ぶ。子育て家庭の問題についてグループディスカッションを行う。					事前：子どもと家庭に関する記事等を読み、自分の意見を下書きする。 事後：グループディスカッションで発表された意見をまとめる。		講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分	
2	少子高齢社会における子ども家庭福祉の現状を学び、家庭支援の意味を考え、超少子化社会における子育てについてグループディスカッションを行う。					事前：超少子高齢社会に関連する記事等を読み、200字程度にまとめる。 事後：家族形態の変化と共働き世帯の増加との関連性についてまとめる。		講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分	
3	欧米や日本における子ども家庭福祉の歴史的変遷を学ぶ。その当時の社会問題と向き合い、法制度や施設ができた経緯を理解する。					事前：中世以降のイギリスの歴史的発展を調べておく。 事後：法制度・施設の成立経緯を200字程度で整理する。		講義 70分、リアクションペーパーの記入 20分	
4	国際社会および日本での子どもの人権保障の仕組みを学ぶ。人権侵害に関する問題に関するグループディスカッションを行い、認識を深めていく。					事前：日本国憲法における基本的人権に関する事項を読み、ノートにまとめる。 事後：グループディスカッションの内容を200字程度でまとめる。		講義 70分、グループディスカッション 20分	
5	基本となる子ども家庭福祉の法体系を学び、子どもに関する法律の理念と目的を学ぶとともに、関連する法制について学習する。					事前：テキスト第5章を読んでおく。 事後：グループディスカッションの内容を200字程度でまとめる。		講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分	
6	子ども家庭福祉の行財政や実施体制を学び、子ども家庭福祉に関する機関等の役割や機能について理解する。					事前：テキスト第6章を読んでおく。 事後：地域にある児童福祉機関の所在地と業務内容についてまとめる。		講義 75分、学習した内容について意見交換をする 15分	
7	日本の子ども福祉施設の成り立ちを知り、施設で働く専門職について理解する。					事前：保育士資格で勤務できる児童福祉施設を調べる。 事後：専門職に課せられている要件を整理しまとめる。		講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分	
8	子育て支援施策や地域における子育て支援の現状について学ぶ。					事前：居住地域の保育施設（保育所・認定こども園・幼稚園等）数を調べる。 事後：子育て支援施策の変遷をまとめる。		講義 70分、子育て支援施策について意見交換をする 20分	
9	子どもの育ちや親支援に対する母子保健の必要性を理解し、子どもの健全育成の現状について学ぶ。					事前：テキスト第9章を読んでおく。 事後：児童館で実施されている子どもの健全育成について調べ、意見交換する。		講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分	
10	児童虐待等の要因やそれに対応する法制度、支援について学ぶ。被虐待児など家庭で養育が困難となった子どもの養育についてグループディスカッションを行う。					事前：近年起きた児童虐待事件を調べ、200字程度で意見を書く。 事後：児童虐待に対応する児童福祉機関等を整理する。		講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分	

11	障害のある子どもに対する福祉施策やサービス等について学ぶ。子どもの権利との関係についてグループディスカッションを行う。	事前：テキスト11章を読んでおく。 事後：障害のある子どもがどのような保育施設等を利用しているか調べる。	講義 75分、調べた内容について意見交換 15分
12	社会的適応が難しい子どもへの福祉的支援について学ぶ。非行少年や不登校児について理解する。	事前：テキスト第12章を読んでおく。 事後：子どもの人権との関連性について、自分の意見を200字程度でまとめる。	講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分
13	ひとり親家庭の現状と支援策について学ぶ。	事前：ひとり親家庭の実態について調べ、200字程度でまとめる。 事後：ひとり親家庭を支援する機関・施設を整理する。	講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分
14	子どもの貧困について、現状を知るとともに支援策を学び理解を深める。	事前：地域の子ども食堂などの支援活動を調べ、レポートを作成する。 事後：子どもの貧困の支援策の課題を考える。	講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分
15	子ども家庭福祉の未来と課題について学ぶ。	事前：こども家庭庁について調べる。 事後：諸外国と日本のこども家庭福祉の相違点を整理する。	講義 60分、事前学習のレポート内容発表 30分
教本：高玉和子・和田上貴昭編著、『これから学ぶ・理解する子ども家庭福祉』一藝社、（2024年3月刊行） 参考文献：授業中に適宜提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・グループディスカッション（50%）、課題レポート（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 子育て家庭を取り巻く社会状況や問題に関する本や新聞記事などを読み、関心を持って主体的に調べることを望みます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義										
授業科目(英文)	児童文学（Children's Literature）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	横手 拓治																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 明治の興隆期から宮澤賢治まで。近代日本に登場し、現代も読み継がれる児童文学の作家と作品を取りあげ読解するとともに、イメージ作りの方法、キャラクター設定、映像喚起力・オノマトペ表現の特徴なども含め講じる。なお授業の趣旨をふまえ、作者の価値観や作品世界を映像的・演劇的に解釈した、戦後の作品を上映・放送する回を挟んでゆく。小課題、双方向性のやり取りを適宜実施。																			
授業目標： ＊日本児童文学（童話）の魅力を学修し、それを通じて日本語の豊かさと創造性を把握する。 ＊古典となった童話作品が近年のポップシーンにも刺激を与えている点を重視し、時代を超えた表現の力について理解を深める。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
			◎				○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	ガイダンスおよび明治の児童文学について					事前：対象に知識を増やす 事後：リアベ200字		講義60分、応答30分											
2	浜田広介と「泣いた赤鬼」ほか					事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
3	小川未明と「赤いろうそくと人魚」ほか					事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
4	坪田譲治と生活童話					事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
5	『赤い鳥』と鈴木三重吉					事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
6	新美南吉と「ごんぎつね」ほか					事前：対象作者の知識を得る 事後：リアベ200字		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
7	課題に合わせたワーク、宮澤賢治① 導入部					事前：宮澤賢治の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
8	宮澤賢治② 評伝を中心に					事前：賢治の知識を増やす 事後：関連作品を読む		講義45分、資料映像鑑賞30分、応答15分											
9	宮澤賢治③ 生前唯一の童話集『注文の多い料理店』					事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞30分、 応答15分											
10	宮澤賢治④ 5大童話の第1回。「風の又三郎」「グスコーブドリの伝記」を扱う					事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
11	賢治作品の鑑賞① アニメ「グスコーブドリの伝記」					事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		映像鑑賞中心											
12	宮澤賢治⑤ 5大童話の第2回。「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。アニメ作品鑑賞を含む。					事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		講義30分、作品鑑賞60分											
13	宮澤賢治⑥ 5大童話の第3回。「ポラーノの広場」「銀河鉄道の夜」を扱い、「ごし童子(ぼっこ)のはなし」等小品も紹介。					事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分											
14	賢治作品の鑑賞② 演劇動画「銀河鉄道の夜」					事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		講義30分、動画鑑賞60分											
15	まとめの講義と授業内最終試験					事前：全体の復習 事後：全体の再復習		講義45分、試験45分											
教本： とくになし。授業ごとにレジュメを配布する。										参考文献： 澤村修治『宮澤賢治のこぼし』（理論社）＊本書は教員の筆名書籍である。 横手拓治「宮澤賢治はなぜ童話作家になったのか」（web 公開）									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 対象作品はよく読んでおくこと。なお授業で配るものもある。レジュメは再読し、復習に活用すること。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会学（Sociology）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか(社会化) ③社会学的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。									
授業目標： 社会学的想像力／社会学的思考を身につけることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
3	「社会学的想像力」とはなにか 社会学の基本的な考え方である社会学的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に階層について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
5	「社会化」とはなにか 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
11	社会学史Ⅰ 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
12	社会学史Ⅱ 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインタラクショニズム」といった社会学理論を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
13	社会学の手法Ⅰ 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学の手法Ⅱ 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	

教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。	参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。	
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会心理学概論 (Social Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会心理学はその研究対象が極めて広いため、幾つかのトピックスを取り上げて授業を行う。本授業では主に、個人における対人認知のあり方や、集団内における対人関係性のあり方、及び集団が個人に対する意見や態度変容を促す要因や仕組みを学ぶ。授業形態は、講義はもちろんであるが履修生の自発的な関心を高めるために、討議や履修生の発表を中心として行う。									
授業目標： 各トピックスが内包する心理学的な知識の習得にとどまらず、各事例が有する問題点に気づき、自分なりに考え、解釈することが出来るようになるまでが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	社会心理学の歴史、社会心理学の扱うテーマ・方法等の概略を学ぶ。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
3	傍観者効果、多元的無知の現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
4	社会的促進、社会的抑制、注意のコンフリクトの現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
5	メイヨーやレスリスバーガーが行った「ホーソン実験」、及び実験後に生まれた人間関係論を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
6	集団行動にみられる同調行動、集団斉一性、集団規範、集団凝集性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
7	フェスティンガーが主張する「認知的不協和理論」と共に、「反態度的行動」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
8	社会行動を理解するには、我々が有する「態度（社会的な態度）」と、態度を構成する認知的成分、感情的成分、行動的成分の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
9	社会的アイデンティティ、及びハイダーらが主張する「バランス理論」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
10	自己知覚理論、内発的動機づけ、自己効力感の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
11	社会行動を理解するには、内集団、外集団、ステレオタイプ、偏見等の意味を考えることが重要であり、それらの現象の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
12	集団で話し合いを行い決定を下す際には、集団的浅慮、心理的拘泥現象等が関係する。これらの意味を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
13	説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデルを学び意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
14	ジンバルドらによって実行されたスタンフォード監獄実験、並びに没個性化、社会的従属性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 山岸俊男監修「徹底図解 社会心理学」（新星出版）¥1,600	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	社会心理学実験演習（Social Psychology Experimentation）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理学統計法、データ処理入門を履修していることが望ましい							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、社会心理学の基本的な研究方法について、グループでの演習を行いながら学ぶ。基本的には、実験や調査によるデータ取得の方法とあわせてそのデータの解析方法を学び、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」から成る研究レポートを提出していただく。									
授業目標： 実験・調査を体験し、研究レポートを作成することにより、人間の行動や内的状態を測定し、得られたデータから結論を導き出すプロセスを体得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、レポートの書き方					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	社会心理学実験・調査 ①：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
3	社会心理学実験・調査 ①：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
4	社会心理学実験・調査 ①：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
5	社会心理学実験・調査 ①：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
6	社会心理学実験・調査 ②：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
7	社会心理学実験・調査 ②：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
8	社会心理学実験・調査 ②：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
9	社会心理学実験・調査 ②：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
10	社会心理学実験・調査 ③：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
11	社会心理学実験・調査 ③：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
12	社会心理学実験・調査 ③：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
13	社会心理学実験・調査 ③：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
14	研究発表					事前：資料確認・課題検討 事後：演習内容の復習		発表 30分、 討議 60分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		演習	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、レポート（60%）で総合評価する。授業の3分の2以上に出席し、かつ3本のレポート全てを提出した場合にのみ、成績評価の対象となる。									
学生へのアドバイス： グループで行った実験・調査の結果をレポートにまとめていく演習であるため、授業への出席は、非常に重要である。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習										
授業科目(英文)	社会調査研究法演習（Practical Training of Field Work）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	深澤 伸幸																		
履 修 条 件	前提科目	社会調査入門、社会調査法、及び心理統計学のすべての単位を取得済みであること（必須条件）																	
	そ の 他	各自 PC を持参すること、演習という性質上履修生は10名以内とする																	
授業概要： 本授業では、社会調査研究法のまとめとして、自らが調査を企画し、調査項目の選定から調査票を作成することができ、さらに得られた調査データに基本的な検定を行い、調査報告書を作成できるまでを授業の到達目標とします。この目標に到達するに当たり、事前に社会調査入門、社会調査法、加えて心理統計学における様々な知見が必ず必要となります。本授業においては、講義の部分は極力削減し、各人の演習を中心とします。授業評価は調査報告書の手続きき上での適切さ、結果の処理や考察の完成度を対象として行います。																			
授業目標： 自らが社会調査を企画し、調査の実施と調査報告が作成できることを授業の到達目標とします。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義70分、 ディスカッション20分											
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義70分、 ディスカッション20分											
3	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える（1）					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
4	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える（2）					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
5	研究テーマの設定、目的等の調査企画を決定					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
6	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える（1）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
7	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える（2）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
8	質問項目を決定、調査票の作成					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
9	調査実施					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
10	調査データの入力作業					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
11	調査結果の分析、作図・作表の作成					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
12	統計検定法を用いての分析（1）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
13	統計検定法を用いての分析（2）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
14	調査報告書作成作業					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
15	報告書修正作業、調査報告書提出					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義20分、実習70分											
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）、¥2,500										参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」（SBクリエイティブ）									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート（100％）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1／3を超える場合には、報告書を提出しても評価しないので注意されたい。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	社会調査入門（Primary Social Research）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	深澤 伸幸									
履 修 条 件	前提科目	統計に関わる授業を履修していることが望ましい								
	そ の 他	各自 PC を持参すること								
授業概要： 社会調査とは何か、また調査結果をどのような形で分析に繋げることが出来るのか、という一連の過程を学ぶ。具体的には、得られた調査結果をエクセルのシート上に入力することに始まり、各人で初歩の統計法を用いることで調査対象が有する潜在的な特性を明らかにする。社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PC を使い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。										
授業目標： 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学ぶ。この過程において、各自で PC を使い、エクセル上で初歩の分析ができ、かつ結果を正しく解釈できるまでを授業目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 90分		
2	社会調査の目的・種類、調査実施方法、数値の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
3	社会調査研究のプロセス、操作的定義と仮説の設定の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
4	社会調査の倫理、インフォームド・コンセントの意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
5	量的調査の性質、平均値、分散、標準偏差を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分		
6	表計算シートのエクセルを使い、平均値・分散の意味、平均値や分散に関する計算の実習を行い、用語の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
7	エクセルシート上で例題を通じ、ヒストグラム分布を作成する手順を実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
8	引き続き履修生全員がエクセルシート上でヒストグラム分布を作成する手順を習得するまで実習を続ける。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
9	例題を通じて得られたヒストグラム分布結果を作図する実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
10	エクセルシート上で「データ分析ツール」を開き、基本統計量算出の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
11	SD 法、カラーイメージの測定実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
12	カラーイメージ測定結果の入力方法、入力書式決定の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
13	カラーイメージの測定結果から基本統計量を算出し、結果を空間表示できるまでの実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義 90分		
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）¥2,500										参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門」（SBクリエイティブ）
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	社会調査法 (Social Research)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	社会調査入門を履修済みであること							
	そ の 他	各自 PC を持参すること							
授業概要： 社会調査入門では、調査結果が量的数値として得られる場合を学んできたが、本授業では主に郵送調査や電話調査、様々なアンケートにおいて得られる質的数値での調査法を学ぶ。本授業においては社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PC を用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。									
授業目標： 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学び、最終的に各人で質問項目を作成・実施し、かつ分析できるまでを授業目標とする。その過程でエクセルシートを活用し、データ入力、分析、結果のまとめとしても作図・作表方法を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
3	調査の実施、母集団と標本、無作為抽出法の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
4	質的調査の特徴・種類、観察法の実施・記録法の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
5	質問紙調査とプロセス、調査票の基本構成を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分	
6	質的社会調査の実用例、研究デザイン、データ収集方法を学び、各手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分	
7	調査手続きを理解するため、実際に調査テーマを設定し、質問項目作成、分析、レポート作成までを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
8	実際に行う調査のテーマを、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査目的を設定するまでを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
9	実際の調査項目選定に向け、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査項目を設定するまでを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
10	引き続き実際の調査項目選定に向け、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査票の作成までを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
11	回収したデータをエクセルシート上に入力作業を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
12	上記で得られた調査データを群ごとに区分し、再度項目毎に基本統計量を算出する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
13	基本統計量の算出、作図・作表実習に加え、基礎的な統計検定法を用いた演算の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）¥2,500									
参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門」（SBクリエイティブ）									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	社会的養護（Social Care）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中島 健一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では、児童養護施設など、社会的養護を担う児童福祉施設の実践内容について学ぶ。特に児童養護施設の実践を中心に、子どもたちの生活とそれを支える援助者（保育士など）の役割、求められるスキル、社会的養護の実践が抱える課題について、理解を深める。									
授業目標： 本科目では、社会的養護領域の施設で生活する子どもたちの現状と、施設養護実践における援助者側の課題理解を目標とする。自分自身の生活体験などと比較しつつ、社会的養護についての問題意識を明確にし、家庭養護との関連性について理解することを到達点とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業オリエンテーション、社会的養護とはなにか 「社会的養護」の学問的位置づけと重要性について解説する。					事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認		講義60分、質疑10分、 演習20分	
2	社会的養護に関する社会的状況 子どもと家庭を取り巻く環境の変化について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
3	子どもの人権と社会的養護 社会的養護における子どもの権利の考え方について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
4	社会的養護の制度と法体系 児童相談所や市町村など関係機関の機能について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
5	社会的養護の施設（1） 乳児院など養護系施設の概要について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
6	社会的養護の施設（2） 障害児入所施設など障害系施設の概要について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
7	家庭養護 里親制度ならびに関連する支援施策を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
8	社会的養護の変遷／理念と概念 社会的養護の歴史を概観し、基本理念の変遷を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
9	社会的養護の基本原則 社会的養護の6つの基本原理について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
10	社会的養護の理論（1） 心理学領域を中心に社会的養護に関する諸理論を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
11	社会的養護の理論（2） 家族再統合などソーシャルワーク領域の諸理論を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
12	社会的養護の実施体系 児童養護施設など社会的養護の施設の体系を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
13	社会的養護にかかわる専門職 社会的養護関係施設に従事する専門職について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
14	被措置児童等虐待の防止 被措置児童等虐待防止の取り組みについて解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト20分、 講義60分、質疑10分	
15	授業のまとめ 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。					事前：テキスト全体の通読 事後：授業全体の振り返り		小テスト30分、 講義50分、質疑10分	
教本： よくわかる！保育士エクササイズ13「社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック」松本峰雄 監修、ミネルヴァ書房、¥2,800＋税									
参考文献： 授業中に指示する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業時に実施する小テスト（40%）、期末試験（40%）、授業参加状況等（20%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に関心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。									
オフィスアワー： 講義初回に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	社会的養護内容 (Social Care Content)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中島 健一郎								
履 修 条 件	前提科目	社会的養護							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では、社会的養護の歴史的変遷や、児童養護施設を中心とした児童福祉施設の現状と課題を理解した上で、子どものウェルビーイングを保障するための、保育士（対人援助職）としての責務と専門職倫理、必要となる援助技術について学ぶ。									
授業目標： 本科目では、社会的養護の実践現場で必要となる援助方法や、そのために必要となる専門スキル、活用すべき社会資源などの知識を獲得することを目指すとする。また、今日の社会情勢を広い視野で捉え、多様な角度から考察できる知識と問題意識の獲得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業オリエンテーション、社会的養護の実践について（概要） 「社会的養護」の授業を踏まえ、養護実践について概観する。					事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認		講義 50 分、質疑 10 分、 演習 30 分	
2	社会的養護とは何か（その概要について） 講義と、子どもの貧困問題を中心とした事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
3	社会的養護を必要とする背景（社会が抱える問題） 講義と、児童虐待問題を中心とした事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
4	施設養護の原理・原則 養護の原理原則に基づく支援について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
5	養護系施設の実践内容・1（乳児院の実践について） 乳児院の実践について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
6	養護系施設の実践内容・2（児童養護施設の実践について） 児童養護施設の実践について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
7	障害系施設の実践内容（障害児入通所支援について） 講義と、障害児者支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
8	施設における支援過程の理解・1（年齢に応じた支援） 講義と、施設入所児童の年齢別課題に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
9	施設における支援過程の実際・2（入所～退所への流れ） 講義と、施設における援助過程に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
10	施設における支援過程の実際・3（1日の生活） 講義と、施設における日常生活支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
11	施設の小規模化と里親制度 講義と、里親支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
12	里親・里子の関係性を考える 講義と、里親、養子縁組制度に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
13	里親制度と養子縁組制度 講義と、子どもの「出自を知る権利」に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
14	「生い立ちの整理」とライフストーリーワーク（LSW） 講義と、LSW 実践における課題についての事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10 分、 講義 50 分、演習 30 分	
15	授業のまとめ 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。					事前：過去の資料を精読 事後：授業全体の振り返り		小テスト 30 分、 講義 40 分、演習 20 分	
教本： なし（授業時にレジュメ配布）					参考文献： 授業中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業時に実施する小テスト（70%）、授業参加状況等（30%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に関心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。									
オフィスアワー： 講義初回に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会福祉概論（Introduction to Social Welfare）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高玉 和子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちの生活を支える社会福祉の仕組みについて理解し、福祉ニーズや課題についてグループディスカッションを通して思考力を養う。社会福祉の成り立ちや法制度、福祉サービス等を学び、少子高齢社会への対応について自分の意見を述べられる力を培う。社会福祉や保育等の現場で実践者としての基本的技術・知識を習得して対応する力をつける。									
授業目標：到達目標は以下の通りである。 1．社会福祉の意義と目的を理解できるようになる。 2．社会福祉制度について理解し、知識として活用できるようになる。 3．社会福祉の知識・技術を身につけ、福祉・保育等の現場で活用できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	社会福祉に関する身近な生活問題についてグループで話し合ってみよう				事前：テキストの第1章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、グループワーク、グループ発表40分	
2	社会福祉の歴史を理解し、今日の社会福祉の成り立ちを理解する				事前：テキスト第2章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループ発表40分	
3	社会問題について現代生活の中で何が起きているか関心を持ち、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第3章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
4	日本の福祉政策を調べ、それぞれの施策についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第4章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
5	福祉サービスの供給を実際に担っている事業について調べ、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第5章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
6	社会保障制度、特に現在の年金制度や医療制度、公的扶助等について知り理解を深め、グループワークを行う				事前：テキストの第6章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループ発表40分	
7	相談援助の基盤と方法について理解し、模擬体験する				事前：テキストの第7章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ロールプレイ、感想40分	
8	地域社会の社会資源の活用について考え、地域福祉についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第8章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
9	共生社会とは何か身近な事例をあげて考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第9章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
10	子育て家庭の現状と支援を理解し、現在の問題についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第10章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
11	障害者の現状や生活実態に対し、何が求められているかを考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第11章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
12	高齢者への福祉対応が喫緊の課題となっている状況を考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第12章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
13	権利擁護の仕組みについて理解し、私たちの権利についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第13章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
14	日本とは異なる文化・経済背景をもつ諸外国の福祉の相違を理解しながら、福祉の在り方についてグループディスカッションを行う				事前：テキスト第14章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
15	これから必要とされる社会福祉の課題への対応について、グループディスカッションを行う				事前：テキスト第15章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分	
教本： 高玉和子・和田上貴昭編著『これから学ぶ・理解する社会福祉』一藝社（2023年3月刊行）					参考文献： 授業中に適宜提示する。				
成績評価の方法、評価基準： ワークおよびグループディスカッションのまとめ（50%）、レポート（50%）で総合評価。									
学生へのアドバイス： 少子高齢社会の中で学習することの意義は大きくなってきています。自分で調べて理解する力をつけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	宗教史 (Religion)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、 宗教とは。日本宗教の形成と展開について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	（通史）宗教の風景について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）神々の世界 神社の歴史と役割について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）儒教と道教と仏教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安仏教〔最澄・空海〕について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（中世）禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	（近世）近世の宗教と学問 キリシト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	（近世）国学と国体について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	近代日本における政教分離の形成について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	一神教と多神教。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	宗教の未来。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリント配付。					参考文献： 1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50％）と試験（50％）などで評価する。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団の社会心理学 (Social Psychology of Group-Behaviors)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの集団間において、互いのコミュニケーションを図るために様々なジェスチャーやサイン行動等の表出を行っている。本授業では社会心理学並びに比較行動学の視点から、主になわばり行動（人間の空間行動）、身体的なサインやノンバーバルコミュニケーション行動を取り上げ、集団を含む社会行動の意味を理解する。									
授業目標： 我々が集団の一員として行う様々な社会行動の意味を学び、それらの意味と問題点が理解できることを、本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	「動作」には生得的動作に始まり、発見動作、同化動作、訓練された動作に加え、獲得された混合動作があり、それらの動作の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	「ジェスチャー」には偶発ジェスチャー、表出ジェスチャー、模倣ジェスチャー等があり、各ジェスチャーの持つ意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	「サイン（合図）」には肯定・否定のサインや、凝視行動、歓迎と送別や挨拶を示す行動などが含まれる。我々が他者に示す様々なサイン行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	我々が安心感や安らぎを求める際には、「身体接触結合サイン」や「自己接触行動」等を表出する。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	我々が肯定や否定を行う際には、「矛盾信号」や「不足信号」、及び「過剰信号」等の身体表出を行っている。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	我々が示す「なわばり行動」すなわち「パーソナルスペース（空間行動）」は、我々の快－不快の感情とも密接な関係がある。我々が有する空間行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	我々が強敵から身を守る際には「身をすくめる」、「防衛する」に加え、「服従する」等の行動を取る。これらの行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	様々な争いの際に見られる「利他的行動」や「闘争行動」に加え、「勝利のディスプレイ」を示す。これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	外部からの刺激が遮断されると、我々は様々な精神的不安定状態に置かれる。「ひきこもり」現象のように、外部刺激が遮断されることが自律神経信号に変調をもたらすことを理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	人を不快にさせる他者の表出行動には「軽蔑信号」や「威嚇行動」等があり、これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	人は男らしさや女らしさの信号として「着衣信号」や「身体装飾」等を行うが、これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	他者との接触を求める際に、我々は「親信号」や「幼児信号」等を表出する。これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	集団で行われるスポーツ行動の歴史と意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： デズモンド・モリス（藤田 統 訳）「マンウォッチング 人間の行動学」、 小学館、¥4,800	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団間の対立と和解（Conflict and Compromise among Groups）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 歴史的に見ても、様々な国や集団間において対立や和解が起きている。これらの対立や和解には、他の集団に対する偏見や社会的な態度が大きく関わっている。また偏見や社会的態度を構成する要因としては、様々な社会的な事象や出来事が大きく関与している。本授業においては、対立や和解を生じさせる各種の要因を取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する。									
授業目標： 集団間の対立と和解を生み出す幾つかの社会的な要因をトピックスとして取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を考え、理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	「グローバリゼーション」と「ソーシャルネットワーク」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	「うわさと流行の心理」と「報道と世論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	「社会的偏見と差別」と「社会的ジレンマ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	「集団主義文化と個人主義文化」と「都市環境と人の幸福」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	「社会的促進と社会的抑制」と「社会的手抜き」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	「同調行動」と「集団的浅慮」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	「リーダーシップ」と「集団規範」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	「マイノリティ・インフルエンス」と「集団間葛藤と集団エゴイズム」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	「社会的アイデンティティ」と「没個性化」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	「子供どうしの人間関係」と「いじめ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	「自尊心と感情の関係」と「愛の三角理論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	「自己開示」と「自己呈示」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： 無藤 隆・森敏 昭・池上知子・福丸由佳編 「よくわかる心理学」、ミネルヴァ書房、¥3,000	参考文献：
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	食文化と観光 (Food Culture and Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 我が国における食文化の現状と特性及び食文化を活かした観光の現状と分析、海外との比較と外国人観光客にとっての食の魅力等を学修することにより、食文化と観光の今後のあり方について探求する。									
授業目標： ①我が国の食文化の特性について理解する。 ②食文化と国内観光・国際観光の現状と今後の食文化観光 (Food Tourism) のあり方を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	食文化と観光の構造：食文化と観光との関係について理解するための体系について学修する。また、味覚と環境：味覚の基本的な構造及び味覚と環境との関係について学修する。				事前：和食の魅力について調査する。 事後：食文化と観光について整理する。			ガイダンス 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
2	和食の特徴：日本食の秀でているところ、世界遺産としての和食の認定要件等、日本料理の特徴について学修する。				事前：食の無形文化遺産について調査する。 事後：和食の特徴について整理する。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
3	地域と食文化：地域の生活と密着して形成された食の素材・料理等における地域固有の食文化・地域特性について学修する。				事前：B 級グルメについて事例検索する。 事後：食の地域性について整理する。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
4	東西の食文化：食文化における観光の成立に大きな影響を与える、地形的特性及び東西地域文化の特性の空間的境目と食文化の差異について理解する。				事前：関西と関東の食文化の違いについて検索する。 事後：東西の食文化の違いをまとめる。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
5	食観光の変遷：観光における食の体験の類型と、観光の変遷に伴う食体験の変容について学修する。				事前：江戸時代の食について調査する。 事後：食観光の今日における課題を整理する。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
6	フードツーリズムとガストロノミーツーリズム：フードツーリズム及びガストロノミーツーリズムについて学修することにより、食文化と観光のあり方について深く考察する。				事前：フードツーリズムについて調査する。 事後：ガストロノミーツーリズムの意味を再考する。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
7～11	食空間と観光：宿泊施設、食堂、路上(食べ歩き)、自然環境など観光における食と関連する場・施設やその内容の現状を把握することにより食と観光との関連について学修する。都市と食環境・港・市場と食環境、鉄道と食(観光列車、駅弁など)				事前：観光地の食事場所について検索する。 事後：食の場・施設と観光の関係について整理する。			復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
12～14	ソールフードの特性：ラーメン、日本そばなど麺食などを中心に、地域の生活文化の中から生まれた食を検証することにより、食文化の形成について理解する。				事前：ソールフードの意味を理解する。 事後：時代における食の形成について検証する。			各回：復習 10 分、 講義(ディスカッション)80 分	
15	塩文化と観光：塩の製造文化、塩の道、塩とエステ、塩と温泉など、塩と観光との連携について学修する。				事前：塩の効用と地域性について調査する。 事後：塩と観光との連携について整理する。			復習 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中いつでも可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	書 道 (Calligraphy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 島 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 中学校国語科書写の学習指導に必要な知識、技能、指導法を学び、書写指導の必要性と意義を理解する。また、日本の伝統や文化の中で育まれた文字文化について理解し、身の回りの多様な表現に対応する思考力、表現能力を養う。楷書、行書の基本的な書き方を毛筆、硬筆の実習を通して理解する。									
授業目標： 書写に関する基礎的な知識、技法を身に付け、楷書、行書の書き方、指導法を習得する。文字文化の豊かさを理解し、日常的に文字を書く習慣を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	中学校国語科指導要領について理解する。 文房四宝など用具用材について、種類や使い方を学ぶ。					事前：シラバスを通読 事後：用具用材を揃える		講義50分 実技30分 質疑応答10分	
2	書道史を学び、漢字の変遷や書体、文字文化について理解する。 姿勢、執筆法を実習する。古典の各書体を臨書し理解する。					事前：書道史を調べる 事後：姿勢、執筆法を復習する		講義50分 実技40分	
3	楷書の基本点画、字形、配列、書き方を学ぶ。 楷書の基本用筆を実習する。					事前：楷書の書き方を調べる 事後：楷書の基本用筆を練習する		講義40分 実技50分	
4	楷書の筆順、文字の組み立て方を学び、実習する。 古典を臨書し、楷書の技法を習得する。古典を臨書する意義を学ぶ。					事前：古典の特徴を調べる 事後：楷書の技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に楷書を書いて提出	
5	中学書写の楷書指導を理解する。 指導法を実践する。（グループワーク）					事前：楷書の技法を纏める 事後：楷書の技法を練習する		楷書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分	
6	行書の筆使い、筆脈など基本的な書き方を学ぶ。 古典を臨書し行書の技法を習得する。					事前：行書の書き方を調べる 事後：行書の基本用筆を練習する		講義40分 実技50分	
7	点画の省略・変形、筆順の変化など、行書の特徴を学ぶ。 行書の基本用筆を実習する。					事前：古典の特徴を纏める 事後：行書の技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に行書を書いて提出	
8	中学書写の行書指導を理解する。 指導法を実践する。（グループワーク）					事前：行書の指導法を纏める 事後：行書の技法を練習する		行書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分	
9	同じ字を楷書と行書で書き、違いを理解する。 指導法を実践する。（グループワーク）					事前：楷・行書の指導法を纏める 事後：楷書、行書を練習する		講義30分 実技60分 半紙に書いて提出	
10	ひらがな、カタカナについて字源、書き方を学ぶ。 ひらがな、カタカナを筆で実習する。					事前：ひらがなの字源を調べる 事後：技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に書いて提出	
11	漢字と仮名を交えて書く書き方を学ぶ。目的に応じて書体を選び、効果的に書くことを理解する。行書に調和する仮名を実習する。					事前：生活の中の文字を調べる 事後：硬筆を練習する		字源小テスト10分 講義40分 実技40分	
12	硬筆について、筆記用具の持ち方、書き方を学ぶ。 楷書、行書、仮名交じり、縦書き、横書きを実習する。					事前：硬筆について調べる 事後：技法を練習する		講義40分 実技50分 硬筆用紙に書いて提出	
13	日本の古典から仮名を学ぶ。 書く文字を選び、漢字と仮名を交えてちらし書きをする。					事前：書く文字を選定 事後：技法を練習する		講義30分 実技60分	
14	大字の書き方を学ぶ。 大字を書き、指導法を実践する。					事前：条幅に書く字を選定 事後：技法を練習する		講義30分 実技60分	
15	条幅に大字を書き、作品についてディスカッションし発表を行う。 授業のまとめ					事前：技法を練習する 事後：なし		実技60分 発表20分 まとめ10分 条幅を提出	
教本： 書の古典と理論 改訂版（光村図書）					参考文献： 国語科書写の理論と実践（萱原書房）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・提出物等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 実技を通して、書き方、指導法を習得していきますので、積極的に学び、書写技術の向上を目指してください。									
オフィスアワー： 事前に教科書を注文してください。道具については初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 基 礎 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	井上明也・金 宰郁・鈴木秀顕・山本美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校の情報科目の基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを勧める。							
授業概要： 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
授業目標：具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。 1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要な ICT を活用する基本スキル									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。				事前：シラバスを読む 事後：情報について調べる			講義70分、発表20分	
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、Gメール、Gドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。				事前：ID、パスワードを用意する 事後：授業関連課題を行う			講義40分、実習10分、 課題40分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読込みなどを習得し、その課題を行う。				事前：WindowOSについて調べる 事後：タイピングを練習する			講義40分、実習10分、 課題40分	
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。				事前：ペイントについて調べる 事後：絵描きソフトを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。				事前：文書形式について調べる 事後：授業関連課題を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。				事前：文字揃えなどを調べる 事後：文字揃えなどを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。				事前：段組などを調べる 事後：段組などを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。				事前：表作成、表編集を調べる 事後：表作成、表編集を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成（段組み、ドロップキャップ、ページ罫線）し、その課題を行う。				事前：英語文書を調べる 事後：英語文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。				事前：図形描画を調べる 事後：図形描画を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。				事前：トリミングを調べる 事後：トリミングなどを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。				事前：数式入力を調べる 事後：数式入力などを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
13	タイピングソフト練習、文書（レポート）作成を行い、その課題を提出する。				事前：レポート文書を調べる 事後：レポート文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
14	タイピングソフト練習、文書（論文）作成を行い、その課題を提出する。				事前：論文文書を調べる 事後：論文文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。				事前：総合課題を作成する。 事後：総合課題を提出する			講義50分、 ディスカッション40分	
教本：参考文獻： 『大学生のための情報処理演習』（立野貴之、共立出版）									
成績評価の方法、評価基準： 出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢（30%）、タイピングテスト（20%）、提出課題（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報検索論（Information Retrieval Theory）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 情報検索の技術は、大容量の多種多様な情報資源の中から必要な情報を効率的に見つけ出すために重要な基盤技術である。本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術について学ぶ。また、近年急速に普及している生成 AI を活用した情報検索技術についても学ぶ。合わせて、具体的な検索対象を想定した演習により、効率的な情報検索方法を理解する。									
授業目標： 本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術を理解するとともに、必要な情報を効率的に得るための情報検索方法の修得も目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、情報検索技術の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	情報検索システムの構成と処理概要					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	文書の収集・変換					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	索引付け					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	検索モデル					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	問い合わせ処理とユーザインターフェース					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	情報検索システムの性能評価、分類とクラスタリング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	ソーシャル検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	各種メディアの検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	多言語情報アクセス					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	テキストマイニング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	生成 AI 技術の概要と AI 活用ガイドライン					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	情報検索手法の基礎と生成 AI 技術を活用した検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	情報検索演習 I					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	情報検索演習 II					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報コミュニケーション論（Information and Communication）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	PCを持参の上、参加してください。							
授業概要： 本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれに関わる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。									
授業目標： 現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（産業社会とメディアの変容）					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミュニケーションをとります。					事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（125-137） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（138-147） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（148-158） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（159-168） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（169-180） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（181-190） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読②（1-28） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読②（29-46） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（47-66） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（67-96） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（97-120） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（121-152） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
教本：参考文献： ①『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店）『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店） ②『コミュニケーション学講義』（書籍工房早山）									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報システム概論 (Introduction to Computer Systems)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 情報システムの役割、情報技術、情報リテラシーの必要性、情報収集・加工・分析、情報の表現、論理的思考、ネットワーク化による資源の共有、インターネットの概要、電子メールによる業務の効率化、グループウェアとその機能などについて学習する。									
授業目標： 情報システムの構成要素であるコンピュータなどのハードウェア、ネットワークそして、ソフトウェアまでの基本的な知識が理解・修得ができて、また実際のビジネスの中で情報システムがどのように活用されているか、理解できることを学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報システムについて説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする 事後：情報について調べる		講義 80分、 ディスカッション 10分	
2	情報の歴史から現在のコンピュータの開発経緯まで説明し、その後、課題を行う。					事前：情報の歴史について調べる 事後：コンピュータ経緯を纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
3	データの基礎的表現について説明する。n進数の相互変換について、その関係を含めて、理解し、その課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：n進数を纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
4	コンピュータ内で、数値、文字、画像、音声などのデータについて構造を説明する。その後、課題を行う。					事前：各種データについて調べる 事後：各種データを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
5	アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明し、プログラミングを用いて課題を行う。					事前：デジタル信号を調べる 事後：デジタル信号を纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
6	コンピュータの5大装置（入力、制御、記憶、演算、および出力装置）につ いて学習する。その後、課題を行う。					事前：コンピュータ仕組みを調べる 事後：コンピュータの5大装置を纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
7	ソフトウェアの基本構成（基本ソフトウェア、ミドルウェア、及び応用ソフ トウェア）について理解し、その後、課題を行う。					事前：ソフトウェアを調べる 事後：ソフトウェアを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
8	OS (Operating System) のプログラム、および役割（種類、構成等）につ いて理解し、その後、課題を行う。					事前：OSについて調べる 事後：OSを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
9	言語処理ソフトウェアの機械語、アセンブラ言語、及び高水準言語の種類 及びその処理方式について学習し、課題を行う。					事前：言語処理を調べる 事後：言語処理を纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
10	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方 式について説明する。その後、課題を行う。					事前：FAT32,NTFS等を調べる 事後：ファイルシステムを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
11	ネットワーク（プロトコルとOSI参照モデルなど）と情報システムにつ いて説明し、課題を行う。					事前：OSI参照モデルを調べる 事後：OSI参照モデルを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
12	ネットワーク基礎について学習する。その後、課題を行う。					事前：伝送速度について調べる 事後：インターネットを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
13	データベースの構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並 べ替えを実習し、課題を行う。					事前：データベースを調べる 事後：データベースを纏める		講義 40分、ディスカ ッション 30分、課題 20分	
14	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解 し、その方法を学習し、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 20分、ディスカ ッション 50分、課題 20分	
15	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリ ティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、 ディスカッション 50分	
教本： なし					参考文献： 「情報システム概論、和泉順子他、サイエンス社、2018」				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。情報システムの基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 職 業 論 (Information Vocational Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代社会における職業は、情報による DX が進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要がある。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。									
授業目標： デジタルビジネスモデルやデザイン思考、イノベーション理論を理解し、デジタルトランスフォーメーション DX に対する考え方を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	ガイダンス「DXの基礎知識」					事前：精読①（21-52） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
2	「DXを支えるテクノロジー」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①（53-81） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
3	「データ分析の基礎」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①（83-108） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
4	「ビジネスモデルの立案・実行と組織の動き方」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①（109-130） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
5	「組織にとってのDXと定着法」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①（131-154） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
6	「DXに取り組むに当たり考えておくべき社会との関係性」について学習した内容をもとに、ディスカッションを行う。					事前：精読①（155-180） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
7	「データサイエンスとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（14-24） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
8	「機械学習の基本とその精度評価」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（36-43） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
9	「データの可視化」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（48-64） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
10	「テキストマイニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（68-79） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
11	「ディープラーニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（80-102） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
12	「オープンデータとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（108-116） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
13	「オープンデータの成り立ち」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（118-129） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
14	「データと倫理」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②（132-143） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
15	データサイエンスによるSDG s 課題解決への取り組み					事前：精読②（148-161） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
教本： ①『DXの教養』（インプレス） ②『データサイエンスリテラシー』（実教出版）					参考文献： ①『デジタル・ビジネスモデル』（日本経済新聞出版社） ②『ワイヤレスIoT プランナーテキスト』（リックテレコム）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりとってから臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 処 理 概 論 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上明也・金 宰郁・鈴木秀顕・山本美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校の情報科目の基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを勧める。							
授業概要： 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
授業目標：具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。 1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要な ICT を活用する基本スキル									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。					事前：シラバスを読む 事後：情報について調べる		講義 70 分、発表 20 分	
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、G メール、G ドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。					事前：ID、パスワードを用意する 事後：授業関連課題を行う		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読み込みなどを習得し、その課題を行う。					事前：WindowOS について調べる 事後：タイピングを練習する		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。					事前：ペイントについて調べる 事後：絵描きソフトを纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。					事前：文書形式について調べる 事後：授業関連課題を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。					事前：文字揃えなどを調べる 事後：文字揃えなどを纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。					事前：段組などを調べる 事後：段組などを纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。					事前：表作成、表編集を調べる 事後：表作成、表編集を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成（段組み、ドロップキャップ、ページ野線）し、その課題を行う。					事前：英語文書を調べる 事後：英語文書作成を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。					事前：図形描画を調べる 事後：図形描画を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。					事前：トリミングを調べる 事後：トリミングなどを纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。					事前：数式入力を調べる 事後：数式入力などを纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
13	タイピングソフト練習、文書（レポート）作成を行い、その課題を提出する。					事前：レポート文書を調べる 事後：レポート文書作成を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
14	タイピングソフト練習、文書（論文）作成を行い、その課題を提出する。					事前：論文文書を調べる 事後：論文文書作成を纏める		講義 40 分、実習 10 分、 課題 40 分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。					事前：総合課題を作成する。 事後：総合課題を提出する		講義 50 分、 ディスカッション 40 分	
教本：参考文獻： 『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）									
成績評価の方法、評価基準： 出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢（30%）、タイピングテスト（20%）、提出課題（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 セ キ ュ リ ティ 概 論 （Introduction to Information Security）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 処 理 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウィルス、電子透かし等の脅威や OS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。									
授 業 目 標： 情報セキュリティの必要性を理解し、最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの考え方、技術の歴史について説明し、その後、課題を行う。					事前：セキュリティ歴史を調べる 事後：セキュリティ歴史を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	情報セキュリティ基礎であるセキュリティの考え方（3要素、時系列、及び管理方法）を学ぶ。その後、課題を行う。					事前：セキュリティ要素を調べる 事後：セキュリティ要素を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	情報セキュリティに対するインシデントの具体例、企業の対策状況を学ぶ。					事前：インシデントを調べる 事後：セキュリティのインシデントを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	情報セキュリティにおける脅威（不正アクセス、ウィルス感染等）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：セキュリティ脅威を調べる 事後：セキュリティ脅威を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	情報セキュリティ技術の基礎となる暗号技術について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：暗号技術について調べる 事後：暗号技術を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	電子署名、電子認証、及び PKI の方式、運用について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：PKI について調べる 事後：電子署名、PKI を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	情報セキュリティ対策（ファイアウォール機能、種類、構成など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ファイアウォールを調べる 事後：ファイアウォールを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	情報セキュリティ対策（有効なウィルス対策、SPAM メール対策、及び認証の強化など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：SPAM メールを調べる 事後：セキュリティ対策を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	侵入技術、DOS 攻撃、実装攻撃について現状と技術について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：DOS 攻撃を調べる 事後：セキュリティ攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	安全なネットワーク構成の考え方について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：DMZ について調べる 事後：安全なネットワーク構成を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	情報セキュリティポリシー策定（必要性、概念等）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：セキュリティポリシーを調べる 事後：セキュリティポリシーを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	情報セキュリティの国際標準と法規について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：情報セキュリティの国際標準を調べる 事後：情報セキュリティの国際標準を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	クラウドコンピューティングの考え方と情報セキュリティリスクについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：セキュリティリスクを調べる 事後：セキュリティリスクを纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、ディスカッション 50分	
教 本： 情報セキュリティ初級公式問題集 全日本情報学習振興協会					参 考 文 献： 情報セキュリティ初級認定試験関連の参考書				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 初回の授業に必ず出席すること。情報セキュリティの基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オ フ ィ ス ア ウ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 セ キ ュ リ テ ィ 論 (Information Security)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： この授業では、情報システムとネットワークなどで重要になっているセキュリティ技術および関連するソフトウェア技術を、コンピュータで実習を行いながら習得する。									
授 業 目 標： 企業にとっての情報管理の本質である機密性、一貫性及び可用性の確保とは何かを理解し、そのために必要な情報セキュリティの問題の本質を理解しながら、情報セキュリティの基礎と応用の最新技術を習得する。プログラミングを用いて演習も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの必要性、対策について説明し、その後、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	不正攻撃（ハッカーとクラッカー、及びサイバーテロ）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハッカーを調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	不正攻撃（DoS、トロイの木馬、及びセキュリティホールなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：トロイ木馬を調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	ウイルス（不正プログラムの種類、ウイルスの種類、及びワームなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ウイルスを調べる 事後：ウイルスを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	共通鍵暗号（DES、3DES、AES など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：共通鍵暗号について調べる 事後：共通鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	公開鍵暗号（RSA など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：RSA について調べる 事後：公開鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	ブロック暗号のモード（ECB モード、CBC モードなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ブロック暗号を調べる 事後：ブロック暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	ハイブリッド暗号システムについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハイブリッド暗号を調べる 事後：ハイブリッド暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	一方向ハッシュ関数（MD5、SHA-3など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MD5について調べる 事後：ハッシュ関数等を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メッセージ認証子（MAC、HMAC など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MAC について調べる 事後：メッセージ認証子を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	デジタル署名（技術、利用など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：デジタル署名を調べる 事後：デジタル署名を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	ステガノグラフィと電子透かしについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：電子透かしを調べる 事後：電子透かしを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	鍵・乱数・応用技術について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：暗号技術の鍵、乱数を調べる 事後：暗号技術の鍵・乱数を纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、ディスカッション 50分	
教 本：					参 考 文 献： 情報セキュリティ概論，瀬戸洋一 他著				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 情報セキュリティの概要と基礎理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。予習・復習を行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 理 論 (Information Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 情報データを数理的に取り扱う理論とデジタル表現に変換する方法を学ぶ。次に、デジタル情報データについて、圧縮したり、誤りが生じたときにそれを検出・訂正したり、情報を暗号化したりする方法について説明する。数値・文字・音声・画像・動画などのさまざまな形態の情報が、その特性に応じてどのような方式でデジタル情報として処理されているかを解説する。									
授 業 目 標： 情報データの圧縮、誤り検出・訂正、暗号化、符号化の方法について理解する。数値・文字・音声・画像・動画を実際にデジタル化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス、 授業科目名であるメディア技術について説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする。 事後：メディア関連書を調べる。		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	メディア技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	メディア技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	メディア技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	メディア技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：RGB,CMYKを調べる。 事後：RGB,CMYKを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	オープンネットワーク社会におけるメディア技術の概要、および動向を説明し、課題を行う。					事前：メディア技術を調べる。 事後：メディア技術の概要、および動向を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	メディア技術の処理基礎である情報圧縮技術について説明し、課題を行う。					事前：情報圧縮技術を調べる。 事後：情報圧縮技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	メディア技術の処理基礎である音声、音響符号化、および復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：音響符号化を調べる。 事後：音響符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メディア技術の処理基礎である画像圧縮、および符号化について説明し、課題を行う。					事前：画像圧縮、符号化を調べる。 事後：画像圧縮、符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	メディア技術の処理基礎である復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：復号化技術を調べる。 事後：復号化技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	マルチメディア作品として動画制作をしながら、コンセプトシート（テーマ、企画立案、構成など）を作成する。					事前：SNSについて調べる。 事後：コンセプトシートを纏める。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
14	動画制作の最終確認を行う。コンセプトシートを提出する。					事前：動画の編集を行う。 事後：動画の最終確認を行う。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	課題発表会にて動画を上映し、評論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。		発表 60分、ディスカッション 30分	
教 本： なし			参 考 文 献： なし						
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 初回の授業に必ず出席すること。情報理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報倫理（Information Ethics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 情報社会が進展している。その中には、本来知るべき情報のほか、人々が興味を持つことだけが優先されてしまうためにフェイクニュースなども出回ってしまっている。それは、人としての倫理観が失われていることにほかならない。本講義では、情報社会における倫理観を知り、醸成するとともに現代社会のニュースによるディスカッションを行うことにより理解を深める。									
授業目標： 本講義の目的は、情報倫理の基本的な考え方を身につけ、ニュース時事能力検定 3 級程度の実力を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	情報倫理の必要性（グループディスカッション）					事前：シラバスを読む 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
2	情報通信社会とインターネット、進化と変遷（グループディスカッション）					事前：精読（21-34） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
3	ネット時代のコミュニケーション（グループディスカッション）					事前：精読（35-47） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
4	メディアの変遷（グループディスカッション）					事前：精読（49-61） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
5	メディアリテラシー（グループディスカッション）					事前：精読（63-76） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
6	情報技術とセキュリティ（グループディスカッション）					事前：精読（77-88） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
7	インターネットと犯罪（グループディスカッション）					事前：精読（89-100） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
8	個人情報とプライバシー（グループディスカッション）					事前：精読（101-114） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
9	知的所有権とコンテンツ（グループディスカッション）					事前：精読（115-128） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
10	企業と情報倫理（グループディスカッション）					事前：精読（129-140） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
11	科学技術と倫理（グループディスカッション）					事前：精読（141-153） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
12	ビッグデータと AI の倫理（グループディスカッション）					事前：精読（155-169） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
13	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン（グループディスカッション）					事前：精読（171-184） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
14	SNS と情報モラル（グループディスカッション）					事前：精読（185-196） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
15	情報通信社会とリテラシー（グループディスカッション）					事前：精読（197-204） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
教本： 『情報倫理』（技術評論社）					参考文献： ① 2025 年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応） ②『倫理資本主義の時代』（ハヤカワ新書）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事前準備として、テキストの精読は準備しておいてください。また、ディスカッションはニュースに基づいたテーマにより行われます。常にニュースを気にしつつ、ディスカッションへは積極的に参加するようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	人工知能と未来 (Artificial Intelligence and the Future)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 本講義では、人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成 AI の概要とその活用を理解した上で、どのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて理解する。									
授業目標： 人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成 AI の概要とその活用法を理解することにより、現実の課題への活用法とその効果を理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、人工知能 AI 概説 この授業の目標、実施方法、内容等について説明する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	人工知能の歴史と論理的な思考法：人工知能の歴史と人工知能の技術を理解する上で必要となる論理的な思考法について					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	AI 技術 1 機械学習の分類、基本的な考え方、評価指標等について学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	AI 技術 2 予測を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	AI 技術 3 分類を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	AI 技術 4：ニューラルネットワーク&ディープラーニング、及び教師なし機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	AI 技術 5 AI ツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	AI 技術 6 AI ツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	AI 技術 7 生成 AI の歴史と自然言語処理と関連技術の進化について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	人工知能技術の活用 1 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	人工知能技術の活用 2 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	人工知能技術の活用 3 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
13	AI 戦略の取り組み概要：国内における AI 技術への取り組み概要と AI 利活用ガイドラインについて学ぶ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン 30 分 ディスカッション 60 分	
14	人工知能のビジネス活用事例と課題 1：AI 技術が実装された対象のインパクトとリスク、課題について議論し、まとめる					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン 30 分 ディスカッション 60 分	
15	人工知能のビジネス活用事例と課題 2：各自が選定したビジネス活用事例について検討した結果をプレゼンする					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義 10 分 プレゼン 80 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅰ（Human Resources ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では事例を活用しながら、企業などの組織における人的資源管理とは何かについて考えてみる。前半は人的資源管理の基本を理解し、後半は人的資源管理の各分野を知る。									
授業目標： 1. 企業の人的資源管理への関心を高める。 2. 事例研究を通して、企業が直面する人的資源管理に関する課題を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人的資源管理論の研究対象と学び方）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	企業経営と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	人的資源管理の基本的課題					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	人的資源管理の諸機能①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	人的資源管理の諸機能②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	従業員のモチベーション①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	従業員のモチベーション②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
8	ミニテスト①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
9	リーダーシップとは何か①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	リーダーシップとは何か②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	組織と従業員の関係					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
12	組織構造と職務内容①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
13	組織構造と職務内容②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	人的資源管理の諸課題をどう見るか （企業を見るために私たちが持つべき視点を整理する）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
教本： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅱ（Human Resources ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	担当教員による人的資源管理Ⅰを履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人的資源管理論Ⅰの内容を深め、企業が抱える経営課題を整理しながら人的資源管理の問題を掘り下げる。社会の状況を踏まえつつ、人的資源管理の方向性を考えていく。									
授業目標： 1. グローバリゼーションが人的資源管理に与えた影響を理解する。 2. 企業における人的資源管理の重要性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（①講義全体の流れ ②人的資源管理の諸分野の概略）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	モチベーション戦略と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	ミニテスト ①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	就業形態多様化と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
9	就業形態多様化と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	女性労働者の能力活用と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
12	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
13	外国人労働者の人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト ②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ（人的資源管理の方向性について考える）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
教本： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。									
参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	人 的 担 保 法 (Personal Collateral Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	法 学 ／ 私 法 学 I ／ 私 法 学 II ／ 物 権 法							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 ： 本講義では、債権総則を中心に講義を行ないます。弁済、債務不履行、責任財産の保全といった債権総則の基本を学習したうえで、人的担保としての保証を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標 ： 債権総則の基本的な知識を習得し、ならびに債権の効力、人的担保とは何かについて説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する				事前： 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	債権法の概要 債権法の全体像を解説し、債権法とは何かを理解する				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	債権総論(1) 債権の発生原因・内容による分類、種類債権と「特定」の問題を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権と請求権について調べる。 事後：種類債権と「特定」についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	債権総論(2) 債権の目的（給付内容）の法的問題を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権の「目的」の要件について調べる。 事後：債権の「目的」の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	債権の効力の概要を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権に含まれる力について調べる。 事後：債権の効力と概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	債務不履行(1) 債務不履行とは何かを解説し、債務不履行に対する債権の効力を理解する				事前：債務不履行の類型について調べる。 事後：履行の強制についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	債務不履行(2) 債務不履行と損害賠償、追完について解説する				事前：債務不履行における損害賠償について調べる。 事後：損害賠償の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	人的担保(1) 人的担保としての保証の概要を解説し、人的担保とは何かを理解する				事前：人的担保について調べる。 事後：現代における保証の類型についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	人的担保(2) 債権者と保証人の関係を中心に引き上げ、その法的関係について理解する				事前：保証契約について調べる。 事後：保証契約の成立における要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	人的担保(3) 保証債務と主たる債務の関係について付従性を中心に引き上げ、解説する				事前：付従性とは何かを調べる。 事後：付従性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	人的担保(4) 保証人と主たる債務者との関係について随伴性・補充性の法的論点について理解する				事前：随伴性・補充性について調べる。 事後：随伴性・補充性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	人的担保(5) 保証人と主たる債務者の関係について、求償権・通知義務などを中心に解説する				事前：求償権とは何かを調べる。 事後：求償権についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	人的担保(6) 個人保証の規律 保証人保護の法的諸問題を解説する				事前：保証人保護の規律について調べる。 事後：保証人保護についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	人的担保(7) 保証の特殊形態について解説し、人的担保の理解を深める				事前：連帯保証・共同保証・根保証について調べる。 事後：保証の特殊形態についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	多数当事者間の債権債務関係を解説する				事前：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務を調べる。 事後：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教 本 ： とくになし（資料を配布します）。					参 考 文 献 ： 授業中に適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オ フ ィ ス ア ウ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： はじめて心理学を学ぼうとする学生を対象に「科学としての心理学」の入門的な位置づけで授業を行う。そのため、一部の特定領域の心理学についてのみ深く掘り下げて学ぶのではなく、広い領域にわたる心理学に関する基本的な理論や知見について広く学ぶ授業としたい。授業は講義中心であるが、テーマによっては個別演習やグループワークも実施する。受講後に興味が高まり、さらに各自で深く心理学を学んでいただければ幸いである。									
授業目標： 1 心理学の基本的な理論と知見について理解できる。 2 心理学を学んだことで、心理学的な見方や考え方を今後の日常生活や自己理解・他者理解にいかそうとする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 概説：心理学とはどのような学問か（歴史、研究法、研究領域）					事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
2	認知心理学① 知覚：人間の視覚の不思議					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
3	認知心理学② 記憶：なぜ、人は忘れるのか？（短期記憶と長期記憶）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 45分・ 演習 45分	
4	認知心理学③ 思考と言語：演習（グループワーク）：生き残り大作戦					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		演習 90分	
5	学習心理学① 学習理論：条件づけと観察学習					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
6	学習心理学② 動機づけ理論：やる気のメカニズム					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
7	社会心理学 印象形成と対人認知、説得的コミュニケーション、同調行動					事前：なし 事後：中間レポートの作成		講義 70分・ 演習 20分	
8	発達心理学① エリクソンの生涯発達理論					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
9	発達心理学② 社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
10	発達心理学③ 認知の発達（ピアジェの認知発達理論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
11	発達心理学④ 青年期の発達（アイデンティティの確立）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
12	臨床心理学① フロイトの精神分析理論					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90分	
13	臨床心理学② 交流分析とエゴグラム					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 70分・ 演習 20分	
14	臨床心理学③ 認知行動理論（認知行動療法）					事前：なし 事後：期末レポートの作成		講義 90分	
15	臨床心理学④ 人間性心理学とポジティブ心理学					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 75分・ 演習 15分	
教本： 「心理学入門」 板口典弘・相馬花恵 編著 講談社 2017					参考文献： （授業中に紹介する）				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（①心理学実験レポート、②授業の振り返りレポート）50%と定期試験（50%）の総合評価。									
学生へのアドバイス： 心理学は、高校まで学ぶ機会が無かった学問だと思いますが、大変面白く日常生活に役立つ学問です。是非、一緒に楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学（Psychology）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学概論Ⅰでは主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどのような心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進める。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機付け、及びリーダーシップなど、人間理解に必要な基礎的な心理学的知識を学び、理解する。									
授業目標： 主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、実習 30分、 PBL 20分	
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感覚器の働きを学び、感覚情報の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、 PBL 20分	
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
12	リーダーシップに関する代表的な学説であるPM理論とマネジリアルグリッド理論の主張する内容を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： 授業内で指示	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 基 礎 A （Introduction to Psychology A）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： ドイツのライプチヒ大学に心理学研究室を設立した W.M. ヴントにより1879年から心理学の歴史が始まる。時に名探偵コナン君が「真実は一つ」という。「生きる感覚」は多様だ。心理学の先人達は様々な魅力ある枠組みを呈示だが、その探索は尽きることはない。本講義では紀元前からの哲学の歴史には遠く届かないものの、科学という知による心理学からの人間探求の枠組みを概観しよう。									
授 業 目 標： 1. 心理学とは何か、心理学の目的、心のモデル、研究方法について理解する。 2. 心理学の基礎知識及び実践分野に加えて他職種連携の意義を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学習課題）		授 業 形 態	
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス ー心理学の様々な三角形①（生きてる生きてく）ー					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
2	心理学の様々な三角形②（認知ー行動ー感情）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
3	心理学の様々な三角形③（学習心理学ー認知心理学ーゲシュタルト心理学ー）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
4	心理学の様々な三角形④（行動主義ー精神分析ー人間性心理学）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
5	心理学の様々な三角形⑤（今ここでー近い過去ー遠い過去）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
6	カウンセリングだけじゃない心理学					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
7	感覚・知覚の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
8	学習の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
9	認知とは何か					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
10	発達心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
11	教育心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
12	臨床心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
13	障害心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
14	ダイバーシティ時代の心理学ージェンダー、ASD 等ー					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
15	心理学基礎Aで開設した内容の確認と振り返り					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
教 本： 授業にて適宜配布する。					参 考 文 献： 授業にて適宜配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（40%）、レポート（20%）、期末テスト（40%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 本授業は、心の科学としての心理学を含め日々進化している魂としての実践心理学について論じる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学基礎B（Introduction to Psychology B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	心理学基礎Aを履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生物－心理－社会モデルはEngel. G. I. が1970年代に提唱した。現代心理学は、医学・教育・福祉・産業と組織・司法と矯正などの5代領域を中心に相談室に籠った心理学でなく、アリストテレスの時代から蓄積された生きる知見をどのようにマルチステージな今日の生活者を目指すか、対人支援に活かすか、カウンセリングだけじゃない心理学を共有したい。									
授業目標： 多職種連携を求める公認心理師時代、その知見とノウハウにはカウンセラーだけじゃない心理学として企業活動をはじめ、様々な人間関係でも共通しているテーマとして展開したい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	21世紀からの心理学（科学とどう折り合うか）				事前：シラバスの精査。 事後：シラバスの確認			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	自然災害と心の「ハーディネス」から「レジリエンス」へ				事前：自然災害で心を支える 事後：「レジリエンス」発想			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	成功体験を積み重ねて心の健康なのか？ 「自尊感情」VS「本来感」				事前：幸福感（well-being）体験は何か。 事後：「本来感」どう実現するのか。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	「自己実現」を実現する過程とは？				事前：今、自分らしく生きていますか。 事後：「自己実現」の為に気づいたこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	心理学の動向と今日の活躍の場 カウンセラーだけじゃない心理学				事前：心理学が役に立つ場面 事後：カウンセラーだけじゃない心理学			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	クラウド時代の企業マーケティング				事前：「クラウド」からの連想されるもの 事後：クラウドを活用した企業の試み			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	クラウド時代での対人支援				事前：SNS等から失ったこと 事後：Z世代をどう生きる？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	「見立て」としても多職種連携時代の「ケースフォーミュレーション」				事前：目的どおりに進んだ体験の報告 事後：偶然を活かす為に必要なこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	保健・医療領域での心理学				事前：改善してから実践への疑問 事後：スタッフ同士の立ち話の意義			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	福祉心理学領域での心理学				事前：福祉のお世話になるテーマは？ 事後：心理が活躍する為に何が必要か。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	教育領域での心理学				事前：スクールカーストの実体験 事後：多職種連携として変？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	犯罪・非行領域での心理学				事前：犯罪で気になるエピソードは？ 事後：なぜ、非行に走るのでしょうか？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	産業・組織領域での心理学				事前：将来性のある会社とは？ 事後：ストレスへの対応			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	地域を活かす心理学				事前：地域で自分らしくいられる場所？ 事後：心理学から活躍できる場面は？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	この時代「君たちはどう生きるのか」…				事前：自身を受け止めるとは 事後：本授業から気づいたこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、科学としての心理学を含め日々進化している実践心理学について論じる。そこで、生活等である自分のエピソード体験と関連させての理解を各位に求めたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学研究法（Approaches to Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、心理学の研究法、心理学の研究論文の検索方法、論文の読み方、論文のまとめ方を学ぶ。									
授業目標： 心理学研究の論文を検索し、読んで理解し、概要を記述することができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講義	
2	心理学における研究とは、論文検索の方法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義 50分、演習 40分	
3	様々な心理学研究法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義	
4	心理学論文の構成				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の構成を確認する			講義 50分、演習 40分	
5	心理学論文の読み方				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の内容をまとめる			講義 50分、演習 40分	
6	心理学論文内容の理解				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文を読み込む			講義 20分、グループワーク 70分	
7	心理学論文のまとめ①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分	
8	心理学論文のまとめ②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分	
9	心理学論文のまとめ③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表準備			講義 20分、グループワーク 70分	
10	発表会①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
11	発表会②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
12	発表会③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
13	発表会④				事前：論文検索 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
14	論文形成での記述方法				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文のまとめレポートを作成する			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に、都度紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポートまたはテスト等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	心理学実験演習 (Seminar on Psychology Experiment)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理統計法の単位を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学実験を実施・分析・報告する力を養うことを目的とする。統計法・実験法を履修済みの学生が無理なく実践的な経験を積めるよう、ストループ効果、SD法によるイメージ測定、系列位置効果の3つの実験を中心に進める。									
授業目標： 1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。 2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。 3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。 4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	ストループ効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	ストループ効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
4	ストループ効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
5	ストループ効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
6	SD法によるイメージ測定：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	SD法によるイメージ測定：質問紙作成					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分	
8	SD法によるイメージ測定：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
9	SD法によるイメージ測定：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
10	系列位置効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	系列位置効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分	
12	系列位置効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
13	系列位置効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
14	総合演習（実験結果の考察ワークショップ）					事前：13回までの復習 事後：考察をまとめる		実習 90分	
15	総合演習（グループ要約レポート作成とまとめ）					事前：要約作成の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。									
参考文献： 「よくわかる心理学実験実習 [第2版]」 ミネルヴァ書房 ￥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ〈第2版〉」 北樹出版 ￥2,400									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	心理学実験法（Experimental Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前提科目	心理統計法を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学実験の基礎を体験し、知覚・潜在態度・顕在態度を実証的に学ぶ。ミュラー＝リヤー錯視、IAT、質問紙調査を通して、方法・分析・考察までを体験する。グループワークとディスカッションを交え、心理学実験の理解を深める。									
授業目標： 1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。 2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。 3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。 4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	ミュラー＝リヤー錯視：錯視とは何か・実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 60分 実習 30分	
3	ミュラー＝リヤー錯視：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
4	ミュラー＝リヤー錯視：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
5	ミュラー＝リヤー錯視：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
6	IAT（潜在連合テスト）：実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	IAT（潜在連合テスト）：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
8	IAT（潜在連合テスト）：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
9	IAT（潜在連合テスト）：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
10	質問紙調査：質問紙調査とは何か					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	質問紙調査：質問紙作成					事前：資料を読む 事後：データの収集		講義 30分 実習 60分	
12	質問紙調査：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
13	質問紙調査：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
14	総合演習①（3つの実験結果をまとめる）					事前：13回までの復習 事後：ポスターの作成		実習 90分	
15	総合演習②（3つの実験結果をポスター発表する）					事前：ポスター発表の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。									
参考文献： 「よくわかる心理学実験実習 [第2版]」 ミネルヴァ書房 ￥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ〈第2版〉」 北樹出版 ￥2,400									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この科目は、実験演習の基礎科目です。「心理学実験演習」、「社会心理学実験演習」を受講予定の学生は必ず履修してください。本授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	心理統計法（Psychometrics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学で必要な統計手法を実践的に学ぶ。前半は電卓で基礎統計を理解し、後半はPCでt検定・カイ二乗検定・回帰分析を実践する。統計の使い分けと結果の解釈力を養う。									
授業目標： 1. 心理学でなぜ統計が必要なのかを説明できるようになる。 2. 心理統計に関する基礎的な知識を説明できるようになる。 3. 統計手法を目的に応じて選べるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理統計とは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
2	代表値（平均・中央値・最頻値）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
3	散布度（分散・標準偏差）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
4	記述統計法					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
5	標準化（Z 得点）					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
6	相関分析（散布図と相関係数）					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
7	統計的仮説検定の基礎					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
8	Excel の基本操作					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
9	記述統計を PC で可視化					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
10	対応のある t 検定（同じ集団の前後比較）					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
11	対応のない t 検定（独立した 2 群の比較）					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
12	カイ二乗検定（カテゴリーデータの比較）					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
13	回帰分析（基礎）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
14	総復習と検定の使い分け					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
15	まとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義 60 分 演習 30 分	
教本：「統計嫌いのための心理統計の本」 創元社 ￥2,200 参考文献：授業中に随時紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 統計は「慣れ」が大切です。演習を重ねて手を動かし、データを読む力を身につけましょう。難しく感じても、基礎を押さえれば必ず理解が深まります。わからないことは積極的に質問し、仲間と学び合う姿勢を大切にしてください。授業では、電卓（2回目以降）や表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコン（8回目以降）を使った計算や分析を行うので用意してください。詳細は初回授業でお伝えします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	数学（Mathematics）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、数学の歴史的背景を踏まえ、さまざまな数式の作り方、また、数式と図を関連づけたグラフ（座標）の書き方について学び、解の導き方を身に付けることによって、数学的思考力の向上を目指します。さらに、線形代数におけるベクトルと行列について学び、大学数学の基礎を身に付けます。									
授業目標： ①数列の一般項を数式で表すことができ、数列の和を求めることができる。 ②数式と座標の関係を理解し、さまざまな関数のグラフを書くことができる。 ③微分とは何か理解し、微分係数と導関数の計算ができる。 ④ベクトル及び行列とは何か理解し、それらを用いた計算ができる。 ⑤偏微分とは何か理解し、基礎的な計算ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション「数学」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 数と数学についての学び方を学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク（15分） 講義（75分）	
2	数列と素数について学ぶ。					事前：数学ノートを準備する 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） グループワーク（30分）	
3	Σと数列の和について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
4	デカルトと関数のグラフについて学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
5	関数のグラフと方程式の解、不等式の解について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
6	ニュートンと微分法と積分法(1) 微分法について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
7	ニュートンと微分法と積分法(2) 積分法について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 小テスト（30分）	
8	ピタゴラスと三角関数について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
9	オイラーと指数・対数について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
10	線形代数学(1) ベクトルについて学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
11	線形代数学(2) ベクトルの内積・外積について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
12	線形代数学(3) 行列について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
13	線形代数学(4) 行列式と逆行列について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
14	線形代数学(5) 連立一次方程式とガウスの消去法（掃き出し法）について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：学びのマップ作成		講義（60分） 演習（30分）	
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。					事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う		講義（40分） 試験（50分）	
教本： 藤田岳彦、他「Primary 大学ノート よくわかる基礎数学」実教出版、2021年（第3刷） ISBN 978-4-407-32513-3						参考文献： 必要に応じて授業内で紹介する。			
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、数学ノート、振り返り等）：60％、小テスト：10％、試験：30％で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： 数学ノートについて、初回講義日に説明する。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技 A（Physical Exercises A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	白井 大史								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	ソフトボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	バドミントンⅣ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし									
参考文献： 特になし									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半日間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	スポーツ実技 A（Physical Exercises A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ス ポー ツ 実 技 B (Physical Exercises B)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	白 井 大 史								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	持 病 が あ る 場 合 は 担 当 教 員 に 事 前 に 申 し 出 る こ と							
授 業 概 要 : 本 講 は、様 々 な スポ ー ツ を 実 践 す る こ と に よ っ て 各 種 目 か ら 得 ら れ る 楽 し さ や 喜 び を 体 験 す る と と も に、健 康 や 体 力 の 維 持 ・ 増 進 の た め に 必 ず し も 必 要 な 運 動 を 効 果 的 に 実 践 す る 基 礎 を 身 に つ け る こ と を ね ら い と し て い る。ス ポー ツ 種 目 は、バ ス ケ ッ ト ボー ル、バ レー ボー ル、サ ッ カ ー、フ ッ ト サ ル な ど を 行 う 予 定 で あ る が、ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り な ど に つ い て も 実 践 し て い く。な お、天 候 の 関 係 で 実 施 す る 種 目 を 変 更 す る 場 合 が あ る。									
授 業 目 標 : 近 年、悪 性 新 生 物 や 心 疾 患 な ど の 生 活 習 慣 病 に 関 連 す る 疾 病 が 増 え、「健 康」を 考 え る う え で、ス ポー ツ や 運 動 が 大 き く 影 響 し て い る こ と が 知 ら れ て い る。そ こ で 本 講 で は、健 康 で 充 実 し た 社 会 生 活 を 送 る た め に 必 ず し も 必 要 な 体 力 を 維 持 ・ 増 進 す る こ と を 到 達 目 標 と し、定 期 的 な 運 動 習 慣 を 確 立 す る た め の 基 礎 を 学 習 す る。 ま た、授 業 に お け る 「ル ー ル と 安 全」を テー マ と し、ス ポー ツ の 実 践 を 通 じ て 社 会 生 活 に 必 要 不 可 欠 な 集 団 行 動 や コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン に つ い て も 学 習 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標（最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○							◎		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン、体 な ら し（ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り）					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
2	フ ッ ト サ ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
3	フ ッ ト サ ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
4	サ ッ カ ー I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
5	サ ッ カ ー II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
6	サ ッ カ ー III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
7	バ ス ケ ッ ト ボー ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
8	バ ス ケ ッ ト ボー ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
9	バ ス ケ ッ ト ボー ル III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
10	バ ス ケ ッ ト ボー ル IV					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
11	バ レー ボー ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
12	バ レー ボー ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
13	バ レー ボー ル III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
14	バ レー ボー ル IV					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
15	本 講 の ま と め					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
教 本：参考 文 献： 特 に な し特 に な し									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等（70%）、実 技 試 験（30%）等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 遅 刻 は 絶 対 に し な い こ と。半 年 間 預 け る こ と が で き る 室 内 シ ュ ー ズ を 用 意 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技 B（Physical Exercises B）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バレーボール、バスケットボール、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	卓球					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	バレーボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	フットサルⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バスケットボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	レクリエーションスポーツⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	スポーツ論（Health and Sports Education）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「健康である」ということは、生涯において深く関わることであり、充実した生活を送るための基盤となっていることである。本講は、「健康づくりのためのスポーツ」または「スポーツを介した健康づくり」について学び、自らの健康について考え、より豊かな生活を送るための知識や方法を身につけることを目的としている。									
授業目標： 現代社会の生活の中において適度にスポーツ習慣を持つことは、ストレス発散や健康維持・増進につながり「心身の健康」に大きく寄与する。「健康スポーツ」の成立の背景及びその発展の経緯を教示し、自発的にスポーツに取り組むための知識や方法、これからの健康維持・増進に不可欠とされる基礎理論を学習することを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	体育からスポーツへ					事前：なし 事後：なし		講義	
3	スポーツの意義と役割					事前：なし 事後：なし		講義	
4	生涯スポーツと健康①（健康観の変遷、健康の現状と課題）					事前：なし 事後：なし		講義	
5	生涯スポーツと健康②（メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームとは）					事前：なし 事後：なし		講義	
6	生涯スポーツと健康③（体力について）					事前：なし 事後：なし		講義	
7	生活習慣病について					事前：なし 事後：なし		講義	
8	救急法について					事前：なし 事後：なし		講義	
9	休養とは(ストレスと健康)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	スポーツと栄養					事前：なし 事後：なし		講義	
11	スポーツマネジメント					事前：なし 事後：なし		講義	
12	スポーツの心理					事前：なし 事後：なし		講義	
13	スポーツのデータ収集・分析①					事前：なし 事後：なし		講義	
14	スポーツのデータ収集・分析②					事前：なし 事後：なし		講義	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 適宜資料配付					参考文献： 必要時に提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対しないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	性格心理学（Personality Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私達が体験している「こころ」の中で様々な感情がうごめいている。そこに個人差を求める性格心理学がある。個々がどのような枠組みをもって自身の「こころ」に思いをよせるか、性格心理学ではコナン君のように「答えは一つ」ではなく様々な可能性を学ぶ。									
授業目標： 1. 自身や他者に思いを寄せる様々な可能性に関心をもてること 2. 「答えが一つ」でないことから様々な可能性に開かれている体験となることを期待したい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人間ならではの探究、「性格」と「人格」の差異、それぞれの方向性）生まれつき or 生後の体験から？					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	「魂」から「心」への展開（S.フロイトの展開と心の成り立ち）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	今日の性格探究への端緒（20世紀初頭のウィーンでの後の巨匠たちS.フロイトから離反したA.アドラーとC.G.ユング）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	深層心理（無意識）をめぐる三巨匠の対立、氷山のようなゴツゴツな心のカタチに批判からユング、アドラーの展開。					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	アート作品にみるC.G.ユングの集合的無意識の展開（ジブリ作品を彷彿させる元型論からの性格）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	C.G.ユングのタイプ論、ライフサイクル論の展開					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	A.アドラーの目的論、器官劣等説（そもそもネガティブな性格でもどう生きるか、乗り越えるかが自己実現と関わる）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	性格の分類への心理学理論（基本的な枠組み特性論・類型論）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	性格心理学の展開（古典的な理論の凄み）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	特性論・類型論それぞれから発展した性格検査					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	性格理論の今日（最新のパーソナリティ理論最近の心理学研究動向）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	性格理論の今日（ピック・ファイブ、クロニンジャーの7因子）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	性格検査の体験（質問紙法・エゴグラム等）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	性格検査の体験（投映法・コラージュ作品等）					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	まとめ：なぜか蚊に刺されやすいO型、血液型は性格に関連するのか・ユングタイプ論のMBTIが求めるものは？					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（30%）、小レポート等（30%）、学期末テスト（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業では、特に性格の成り立ちとして発達の、力動的な視座を重視した。自己理解にも資すると期待している。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い続けているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。									
授業目標： 1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことかをお話しします。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	「政治」とは何か：「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	国家：国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	政治体制：政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	政治制度と政治過程：政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	公共政策：政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、 フィードバック	
8	議会：政治過程での議会と行政府との関係を中心にお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	政党：政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	利益団体：政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	選挙制度：政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	投票：人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	マスメディア：マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすかを考えます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	国際関係：国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。					参考文献： 久米、川出、古城、田中、真淵著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年） ¥3,400を推薦します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問いにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。									
授業目標： 1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治と政治過程というものについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義と対話	
2	民主主義と政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	市民革命と民主主義：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	民主主義と現代の政治体制：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	権力分立と行政と立法：権力分立の形と背景を学び、行政と立法の意味と関係について概略します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	選挙：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
8	政党：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	利益団体：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	大衆社会、ネット社会と民主主義：大衆社会での民主主義の姿とネット時代でのその変化について学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	大衆社会と選挙：大衆社会での選挙行動について、その理論の系譜を追いながら考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	国家と権力：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	民主主義と寛容さ：自由な民主主義にとって不可欠な寛容さの問題を、政治学の歴史を背景に学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
15	政治とは何を指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方を一緒に考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： 毎回ハンドアウト（配布資料）を配ります。それに従って講義を進めます。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	三 枝 昌 幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では政治とはどのような営みであるかを学習する。最初に政治の基本理念や歴史、具体的な政治制度について解説し、それらの知識を踏まえつつ政治や政治学が直面している具体的な課題を検討していく。									
授業目標： 1. 政治学の基礎知識を習得すること。 2. 現代の政治や政治学が直面している問題について自身の見解を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	政治とは何かについて様々な見解を検討する。政治の意義について検討する。					事前：シラバスの熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
2	権力分立の理念やその具体的な仕組みについて学習する。権力分立の意義や課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
3	国民主権の理念やその具体的な仕組みについて学習する。国民主権の意義や課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
4	明治維新から第二次世界大戦終結までの日本政治史を学習する。戦前の日本政治の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
5	第二次世界大戦後の日本政治史を学習する。戦後の日本政治の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
6	国の政治制度のうち立法機関について学習する。立法過程に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
7	国の政治制度のうち行政機関について学習する。行政過程に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
8	地方自治の仕組みについて学習する。地方自治に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
9	世界各国の政治制度について学習する。各国の政治制度の長所と短所について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
10	選挙制度について学習する。現行選挙制度の長所と短所について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
11	政党制度について学習する。現代日本の抱える政党制度の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
12	世論と政治の関係について学習する。政治の分野でマスメディアが果たすべき役割について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
13	国際政治の仕組みについて学習する。現代の国際政治が直面している課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
14	国際紛争について学習する。これからの政治や政治学が国際紛争にどのように対処すべきか検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
15	環境問題について学習する。これからの政治や政治学が環境問題にどのように対処すべきか検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
教本： 使用しない（レジュメを配布する）。					参考文献： 使用しない。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃からニュースを確認して政治に関する情報を収集しておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	成 人 ・ 老 年 期 の 心 理 （ Psychology of Adults and Elderly ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 ： 成人期から老年期にかけての発達と心理の変化を学ぶ。加齢に伴う認知・運動機能の変化やパーソナリティの発達、人間関係やキャリアの特徴を理解し、老年期の心理的課題についての知識を深める。									
授 業 目 標 ： 1. 成人・老年期における発達課題と心理の変化を理解し、主要な理論や概念を説明できるようになる。 2. 成人・老年期の多様なライフイベントや社会的関係について、自分の意見を述べられるようになる。 3. 成人・老年期の心理的課題に対して共感的な視点を持ち、コミュニケーションの在り方を考えられるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	成人・老年期の心理とは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
2	成人期の発達課題とアイデンティティ					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
3	ライフイベントと心理的適応					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
4	中年期の危機（ミッドライフ・クライシス）					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
5	親子関係と中年期の心理					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
6	仕事とキャリアの心理学					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
7	パートナーシップと愛情関係の変化					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
8	老年期の発達課題と幸福感					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
9	記憶と加齢（認知機能の変化）					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
10	老年期の社会的つながりと孤独					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
11	ロールモデルとしての高齢者像					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
12	喪失とグリーフ（悲嘆）の心理学					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
13	健康とメンタルヘルス（成人・老年期のこころと身体）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
14	高齢者とのコミュニケーションのコツ					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
15	成人・老年期の心理のまとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義 60 分 討議 30 分	
教 本 ： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参 考 文 献 ： 「発達心理学15講」 北大路書房 ￥2,200				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 ： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス ： 発達や加齢の影響を学ぶだけでなく、支援を必要とする人々の立場に立って考え、実践的な視点を持つとともに、自身の将来を見通す意識を持って授業に参加することを期待します。									
オ フ ィ ス ア ウ ー ： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	青年期の心理（Psychology of Adolescent Age）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： スタジオジブリ作品『ハウルの動く城』その魔法使いハウルが住む城は青年期の姿そのものだ。大砲の攻撃性、大きな口は食欲さ、心への入口は小さい。特に最大の特徴はなんと「動く城」なのだ。映画作品としてではなく心理学からその姿を読み取ってゆきたい。									
授業目標： ①米国の心理学者スタンレー・ホールによれば青年期は「疾風怒濤」という。青年期での心理学的な展開に関心を深める。 ②青年期以前とそれ以降のライフステージへの意義へ『君たちはどう生きるか』自身にさらに問う契機となることを期待する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 導入 『ハウルの動く城』にみる青年期				事前：シラバスの精査 事後：自身と対比し、まとめる。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	発達と青年期（期での共同注意と共感：M.トマセロ・九カ月革命、砂場から社会へ・・・）				事前：幼少期の体験と今に関心をもつ。 事後：幼少期での砂場体験との関連を			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	発達と青年期 （最早期での二者関係：S.フロイト、M.クライン）				事前：幼少期での親との関連 事後：振り返った内容をまとめる。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	発達と青年期（分離・個体化理論：M.マラー、P.プロス）				事前：母と子で公園デビューな体験から 事後：安心・信頼感の所在を確認する。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	生涯発達と青年期（アイデンティティ：E.エリクソン）				事前：自分らしさを気に入っているのか 事後：今後の人生で味わいへの創造			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	生涯発達と青年期 （A.アドラー、C.ユングでの自己実現）				事前：変えてみたい行動パターンは 事後：アドラー、ユングどちらが好き			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	青年期の中ーギャップからの友人関係の形成 （「大人に愛される」から「友達にどう思われるか」）				事前：中学生での大人になることの体験 事後：中・高校体験の自身振り返る。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	青年期と学校（不登校にみる青年期の心性）				事前：学校に通うことを支えていた体験 事後：長期化する不登校の背景			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	青年期と学校（いじめ・虐待等での心性）				事前：「いじめ」受けた者への思いを想像 事後：ロシアンルーレットとの関連			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	社会に出て行くということ（ニート・ひきこもりの心性と対応）				事前：大学に行きたくないにある思い 事後：「ひきこもり」をどう受け止める			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	青年期と仲間関係 （ギャングエイジ➡チャムグループ➡ピアグループへ）				事前：ギャングロとう現象を理解 事後：仲間体験と今の自身の関連			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	社会に出て行くということ （青年期の遷延化と人生・100年時代）				事前：人生100年時代の青年期 事後：改めて社会参加の在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	社会に出て行くということ （青年期の遷延化と人生・ダイバーシティ時代）				事前：性別・ジェンダーへの理解 事後：多様性としての自身の在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	社会に出て行くということ （青年期の遷延化と人生・「出会い」とは・・・）				事前：今に至った「出会い」とは何か。 事後：青年期での「出会い」とその未来			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	青年期であること（であったこと）への気づき・考えたこと				事前：「生きている、生きてく」に思う 事後：受講者を動かしたアートシーン			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、期末テスト（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 『ハウルの動く城』を鑑賞しよう。アートシーンから心理学の繋がりを楽しめる契機となることを期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生物学 (Biology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	橋詰 二三夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生物学は、生命現象を対象として異なる生命体に共通する部分と共通しない部分の識別・追求から始まり、発展してきた。内容は分子レベルにまで達しているが、詳細（ミクロ）追求のみでは、全体像（マクロ）を見失う場合もあるので、両者のバランスを保ちつつ認識を培う。なお、授業は板書で行い、必要に応じて資料を配布し、パワーポイントなどで説明する。									
授業目標： 1. 生命現象から、発生、環境応答、生態、進化に至る生物の基本的事項が理解できる。 2. 教養として役立つと思われる生物学的基礎知識を習得できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：生物に関するこれまでの学習履歴の確認					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
2	細胞：核、細胞膜、真核生物、原核生物、微生物などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
3	酵素：タンパク質、基質、温度、pH、補酵素などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
4	呼吸：ミトコンドリア、ATP などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
5	光合成：クロロフィル、明反応、暗反応、光補償点、光飽和点などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
6	遺伝 ①：体細胞分裂、DNA、複製、転写、翻訳などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
7	遺伝 ②：減数分裂、優性の法則、分離の法則、独立の法則、組換え価などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
8	遺伝 ③：突然変異などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
9	発生：胚の発生過程、内胚葉、中胚葉、外胚葉などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
10	恒常性：自律神経、ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
11	生体防御：白血球、免疫などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
12	植物：発芽、成長、開花、結実、植物ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
13	個体群：生物群集、植生、共生、なわばり、ニッチなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
14	生態系：物質循環、生産者、消費者、分解者、環境などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
15	進化：系統、分類、種、生活環、ドメインなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
教本： 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修 数研出版 ￥1,243					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 本年度からの担当のため、状況により変更もありうるが、授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。 授業中の私語、スマートフォン操作は厳禁									
学生へのアドバイス： 範囲は広いものの、難易度は低めに設定。									
オフィスアワー： 講義終了後、講義室ないし講師室で対応									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	相談援助（Consultation Assistance）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解し、保育士に求められているソーシャルワークとしての相談援助を学ぶ。そして、相談援助の方法と技術を具体的に展開する方法を事例や演習を通して学ぶ。									
授業目標： 保育士が行う「相談援助」の知識と技術を理解し、習得したうえでの実践であることが求められる。この科目を通して相談援助の概要を理解しつつ、「保育士による相談援助」のための知識と技術の獲得を目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 相談援助の概要を説明する。 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解する。					事前：シラバスの確認をする 事後：相談援助の概要をまとめる		講義 60分、概要のまとめ 30分	
2	相談援助の意義と機能 相談援助が重要とされる根拠や背景について理解する。					事前：相談援助の背景を調べる 事後：社会状況をまとめる		講義 60分、調査 30分	
3	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとしての相談援助の特徴について理解する					事前：ソーシャルワークの下読み 事後：相談援助の特徴をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
4	相談援助のための基本技術 厚木市療育相談センターについて事前調査し、療育の基本を学ぶ					事前：療育について予習 事後：質問事項をまとめる		講義 60分、事前調査 30分	
5	厚木市療育相談センターの視察研究 子どもの療育の相談について実際に視察する。					事前：職員への質問の整理 事後：レポートにまとめる		視察研修 90分	
6	療育相談センター内での相談状況や環境の口頭発表 レポートにまとめ発表をする。					事前：研修の意義やまとめ 事後：他の学生の発表を聞く		口頭発表 60分、レポート 30分	
7	相談援助の方法と技術 相談援助の利用者が抱える内容や、援助課題などを理解する					事前：相談援助の技術を予習 事後：援助課題をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
8	相談援助のための実践アプローチ 相談援助における実用的な実践アプローチを理解する。					事前：援助の態度などを考える 事後：話し合ったことをまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
9	相談援助の演習 事例に基づいて皆で討論し、発表する。					事前：援助者の心構えを考える 事後：他の人の意見をまとめる		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
10	相談援助の具体的展開 計画、記録、評価の方法や必要な事柄について検討する。					事前：相談者の気持ちを考える 事後：事例のまとめ		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
11	専門機関との連携 専門機関や専門職等の連携について学ぶ					事前：専門機関の下調べをする 事後：保育士と協働する社会資源		講義 60分、調査 30分	
12	社会資源の活用、調整、開発 様々な社会資源について調べ、発表してみる。					事前：社会資源について考える 事後：口頭発表の反省		講義 30分、検討 30分、発表 30分	
13	虐待の予防と対応に関する事例分析 虐待のケース発見からアウトリーチまでの課程を理解する。					事前：虐待の定義を予習 事後：児童虐待の過課程をまとめる		講義 60分、事例分析 30分	
14	障害のある子どもとその保護者への支援に関する事例分析 事例を通して援助者としての対応を身に付ける。					事前：障害のある子どもを理解 事後：事例のまとめをする		講義 60分、事例検討 30分	
15	ロールプレイ、フィールドワークなどによる事例分析とまとめ 事例を基に援助場面を体験して学びを深める。					事前：今までの事例を見直す 事後：事例をまとめ、振り返る		講義 30分、事例分析 30分、まとめ 30分	
教本： 相談援助 保育相談支援 著者：笠師千恵、小林明子 発行所：中山書店 ￥2,500					参考文献： 保育所保育指針 解説書 療育相談センターのパンフレット				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事例検討や演習問題、調査後の口頭発表となるべく学生の参加型の授業にする。積極的に参加してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	造形で遊ぶ（造形表現）（Playing with Art）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： これまでに学んだ造形表現のための知識と技能を基礎とし、領域「表現」のねらいや内容に沿った、保育の造形活動について考える。幼児の発達に応じた、課題の設定、教材の選択、画材や道具の使い方を確認するとともに、環境構成についても考え、課題設定や教材研究、指導計画の立案と展開、保育活動の実践を想定した授業を行う。									
授業目標： これまでに学んだ子どもの表現力をはぐくむための知識を基礎として、保育の全体構造に基づいて、子どもの造形的な表現について理解を深め、発達過程に即した教育への知見を深める。 この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』と図画工作・造形表現の意義について検討する。					事前：各自の造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	子どもの造形表現の発達の道筋や特徴について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	遊びと造形について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
4	図画工作の内容「表現(1)」と造形遊びについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
5	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す (1)発想と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
6	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す (2)材料と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
7	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す： 用具と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
8	図画工作の内容「鑑賞」と鑑賞教材について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
9	造形で遊ぶ (1) 素材とイメージについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
10	造形で遊ぶ (2) 色や形からの表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
11	造形で遊ぶ (3) 共同の取り組みについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
12	現代的教育課題と造形・図画工作 (1) 多様なニーズへの対応について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
13	現代的教育課題と造形・図画工作 (2) 保育所・こども園・幼稚園・小学校の連携について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
14	作品・資料集を作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
15	総合レポートを作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
教本： 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省、日本文教出版、¥100＋税 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』平田智久・小野 和編著、教育情報出版、¥1,905＋税 参考文献： 『造形表現が深まるヒント』平田智久・小野和 監修、ひかりのくに、¥1,800＋税 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、¥240＋税 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、¥350＋税 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、¥320＋税									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況・授業態度等（50％）、課題作品・レポート等（50％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	造形表現（Modeling Expression）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 領域「表現」のねらい及び内容について、造形表現の視点から幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について理解を深める。さらに、造形表現の視点から幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識や技能、表現力を身に付ける。									
授業目標： 造形表現の視点から、幼児の表現の姿や、発達を理解する。造形表現の基礎的な知識や技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	領域「表現」における造形表現とは					事前：造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	幼児の遊びや生活における造形表現…映像により理解を深める					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	造形表現が生成する過程…記録					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
4	幼児の表現への気づきと共感…記録の検討					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
5	多様な造形表現の研究(1) イメージ					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
6	多様な造形表現の研究(2) 素材の特性					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
7	多様な造形表現の研究(3) 表現の楽しさを生み出す要因					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
8	多様な造形表現の研究(4) 「共感」…撮影・記録					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
9	多様な造形表現の研究(5) 「想像」・「創造」…撮影・振り返り					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
10	多様な造形表現の研究(6) 豊かな感性と造形表現					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
11	多様な造形表現の研究(7) 思考力の芽生え					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
12	多様な造形表現の研究(8) 「構造」					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
13	多様な造形表現の研究(9) 「協同」					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
14	多様な造形表現の研究(10) 異年齢とのかかわり、小学校との連携					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
15	多様な造形表現の研究(11) 総合的な造形表現					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
教本： ・「幼稚園教育要領」（平成29年 3 月告示 文部科学省）¥164 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年 3 月告示 内閣府）¥164 ・「＜感じる＞ことからはじまる 子どもの造形表現」（教育情報出版）¥2,200					参考文献： ・「保育所保育指針」（平成29年 3 月告示 厚生労働省）¥164 ・「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」（教育情報出版）¥2,095 ・「0 歳児～5 歳児みんないきいき絵の具で描こう！」（株式会社サクラクレパス出版部）¥2,090 ・「造形表現が深まるヒント」（ひかりのくに）¥1,980				
成績評価の方法、評価基準：授業への参加姿勢、課題作品やレポートの内容等により総合的に評価する。 1. 受講者全員から作品・レポートの提出を求め、内容を成績評価に考慮する（70%） 2. 授業態度、質疑応答、授業への参加度を成績評価に考慮する（30%）									
学生へのアドバイス： 子どもと造形表現について意欲的に学び、造形表現の楽しさや喜びを体験し、知識や技能を習得することを期待する。個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅠ（Comprehensive SeminarⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修、小林 克、仲 伯維								
履 修 条 件	前提科目	基礎科目全般							
	そ の 他	なし							
授業概要： 少人数のクラスを編成し、担当教員の指導のもとで、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップの向上を図る。講義方式による指導ではなく、課題を与え学生自らがそれを解き、教員と学生相互の討議によるフォローアップによるレベルアップを図る方式で進める。 以下の「授業内容及び計画」は一応の目安であり、具体的な実施内容は各担当教員の指導に基づく。履修者は初回講義に必ず出席する事（欠席した場合には履修を認めない）。									
授業目標： テーマ：到達目標：社会人としての基礎能力の習得 テーマ：「学士力」に関連したコミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップなど演習を通じて習得できるスキルや態度を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
2	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
3	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
4	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
5	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
6	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
7	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
8	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
9	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
10	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
11	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
12	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
13	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
14	自己管理能力（セルフコントロール）					事前：なし 事後：なし		演習	
15	前期まとめ					事前：なし 事後：なし		演習	

16	ガイダンス	事前：なし 事後：なし	演習
17	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
18	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
19	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
20	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
21	面接	事前：なし 事後：なし	演習
22	面接	事前：なし 事後：なし	演習
23	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
24	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
25	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
26	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
27	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
28	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
29	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本：必要とする教材をその都度準備・提供する。 参考文献：各教員が指定する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題・レポートの提出状況、討議への参加・発言内容などを総合的に判断して評価する。			
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻は認めない。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ (Comprehensive Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 学術論文としての卒業論文が執筆できるように、論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）について説明し、自己肯定感と自己効力感を高め、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）によって、人格形成（モラルの向上）をさせ、人間力（力強く生きていくための力）を養成する。「主体的な学び」への意識の転換を図り、論理的思考力と論文執筆力を身につけさせる。自己肯定感と自己効力感を高め、この授業では、私伊藤幹彦の台湾居住16年（私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授）の経験から得た台湾における実際の生きる力（儒教思想という人徳者になること）も説明する。									
授業目標： 卒業論文を完成させること。1. 論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）の修得。2. 論文執筆力（論文とは何か、論文の構成（序論、本論、結論）、研究テーマの決定、文献や資料の収集、論文の構想、文献や資料の探し方、図書館活用、文献や資料の分析、注のつけ方、参考文献の書き方）の修得。3. 自己肯定感（自分は今のままですばらしいという思考）と自己効力感（自分はできるというプラス思考、信念＋努力＝成功と考え、自分の目標は必ず達成できると考えること）向上、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。勉学意欲（プラス思考）の修得。以上の1. 2. 3. を基礎とし、卒論を完成させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	総合ゼミⅡの授業内容の説明（論理学と論文執筆力と自己効力感）をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：総合ゼミⅡの下読みをする。 事後：総合ゼミⅡのポイントを書く。		講義説明 60分（含む口頭Q&A、アンケート）。自己紹介 30分。		
2	論理学（論理的思考力）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：論理学の下読みをする。 事後：論理学のポイントを書く。		講義説明 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。		
3	論文執筆力（論文の書き方）(1)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。		
4	論文執筆力（論文の書き方）(2)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60分。口頭Q&A 30分。		
5	論文執筆力（論文の書き方）(3)の説明をする。口頭Q&Aをする。				事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60分。口頭Q&A 30分。		
6	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(1) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
7	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(2) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
8	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(3) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q & A 30分。		
9	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(4) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
10	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(5) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
11	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(6) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
12	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(7) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
13	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(8) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
14	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(9) 口頭Q&Aをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。		
15	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(10) 口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。		

16	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(11) 口頭 Q & A をする。アンケートをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭 Q & A 20分。 アンケート10分。
17	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(12) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
18	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(13) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
19	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(14) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
20	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(15) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
21	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(16) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
22	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(17) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
23	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(18) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
24	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(19) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
25	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(20) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
26	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(21) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
27	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(22) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
28	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(23) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
29	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(24) 口頭 Q & A をする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭 Q & A 30分。
30	総合ゼミⅡのまとめをする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。卒論を大学に提出する。	事前：総合ゼミⅡの準備をする。 事後：総合ゼミⅡのまとめをする。	講義説明 60分（含む口頭 Q & A、アンケート）。練習問題 30分。
教本：プリントを配布する。 参考文献：戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』、日本放送出版協会、2012年、¥1,320。 福澤一吉、『論理的思考—最高の教科書』、SBクリエイティブ、2017年、¥1,100。 S・トゥールミン著、戸田山和久・福澤一吉訳、『議論の技法—トゥールミンモデルの原点』、東京図書、2011年、¥3,520。			
成績評価の方法、評価基準：卒業論文（40%）。授業態度やアクティブラーニングや課題への参加や授業への寄与度などの平常点（60%）。			
学生へのアドバイス：私伊藤幹彦は基礎ゼミの授業を通して学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、勉強は必ずできるようになる」）と自己肯定感とファシリテーションで学生の皆さんのやる気を引き出し、成績を高める。頭脳の知性（総合ゼミⅡの専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。儒教思想という人徳者になることも説明する。			
オフィスアワー：初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ（Comprehensive SeminarⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛、金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学、社会学、哲学、伝統文化、経済学、地理、歴史など							
	そ の 他	なし							
授業概要： 担当教員の指導のもとで、多方面の研究活動を行います。総合ゼミⅠの延長上にあるため、各担当教員の指示を受けて下さい。									
授業目標： テーマを立て、それに基づいて調査し、データを集め、報告書完成に至る。これから皆さんに対して、生起する様々な問題などに対して、自身の考えをもって対応できるようにすることが目標です。報告書の完成にいたるプロセスも大切な学習機会であり、自身の希望に向けての思考を確立する方法です。（※論文の執筆もできます。）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	各自の興味・関心事からテーマのガイドラインを策定					事前：地域社会を考える 事後：テーマについて考える		ゼミナール	
2	テーマを確定する					事前：テーマについて考える 事後：地域を絞り込む		ゼミナール	
3	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：図書館や資料館の検索 事後：収集作業		ゼミナール	
4	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：収集作業 事後：収集作業		ゼミナール	
5	地域社会に関する調査方法の考察（観察、インタビューなど）					事前：収集作業 事後：収集検討		ゼミナール	
6	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
7	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
8	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
9	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
10	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
11	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
12	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
13	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
14	調査・研究の中間報告					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
15	調査の結果、進捗の再検討					事前：調査・研究 事後：夏休み、後期への展望		ゼミナール	

16	後期の見通し、継続か方向転換を再検討します	事前：報告 事後：再検討	ゼミナール
17	研究方法の再検討	事前：再検討 事後：各自の事情により異なる	ゼミナール
18	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
19	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
20	調査・研究と報告書の再検討	事前：調査・研究 事後：テーマ決め	ゼミナール
21	報告書のレジュメ作成	事前：大きなまとめ 事後：レジュメ作成	ゼミナール
22	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：レジュメ作成	ゼミナール
23	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：本文原案	ゼミナール
24	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
25	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
26	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
27	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
28	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
29	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
30	報告書完成	事前：報告書作成 事後：報告書完成	ゼミナール
教本： 参考文献： その時々で指示します。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： じっとしているのが苦手な方、歓迎します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	相続法 (Inheritance Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／家族法							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、民法第五編相続を中心に講義を行ないます。相続法の法定原則、共同相続、遺言、遺贈、遺留分減殺請求権を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 相続法の基本的な知識を習得し、ならびに相続法の主要な問題を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	相続法総論 相続制度の全体像を解説する				事前：日本の相続制度について調べる。 事後：相続制度の根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	家督相続から遺産相続へ 日本の相続制度の特色を説明する				事前：家督相続とは何かを調べる。 事後：相続回復請求権の意義についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	相続財産(1) 積極財産とは何かを解説し、現行制度の問題を考える				事前：包括承継について調べる。 事後：現行制度の問題について調べる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	相続財産(2) 消極財産とは何かを解説し、財産分離・限定承認の相互関係の理解を深める				事前：消極財産の相続について調べる。 事後：財産分離・限定承認の相互関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	相続人(1) 相続人の法定 相続人となる者を解説する				事前：現行法のもとでの相続人となる者を調べる。 事後：法定相続人と法定相続分の問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	相続人(2) 相続人の増減(1) 相続人の減少について解説する				事前：相続欠格／廃除人について調べる。 事後：相続欠格／廃除人についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	相続人(3) 相続人の増減(2) 相続人の増加について解説する				事前：養子／遺言について調べる。 事後：養子の状況と濫用についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	遺産分割(1) 特別受益・寄与分(1) 特別受益・寄与分の概要について解説する				事前：特別受益・寄与分について調べる。 事後：特別受益・寄与分についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	遺産分割(2) 特別受益・寄与分(2) 被相続人の意思と相続人間の衡平（調整の性質）を解説する				事前：寄与分における「貢献」について調べる。 事後：被相続人の意思と相続人間の衡平についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	遺産分割(3) 相続に関わる第三者の問題を解説する				事前：共同相続人とは何かを調べる。 事後：共同相続人間の法律関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	遺産分割(4) 分割の協議、それに伴う法的問題を解説する				事前：遺産分割の方法について調べる。 事後：遺産分割の法的問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	遺言と遺留分(1) 遺言と遺留分に関わる諸問題を解説する				事前：遺言について調べる。 事後：遺留分／減殺請求についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	遺言と遺留分(2) 遺言の方式とその法的問題を考える				事前：公正証書遺言について調べる。 事後：遺言に関する問題（事後救済）についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ 相続制度とその法的諸問題への理解を深める				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてももらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	組織心理学（Organizational Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	産業心理学概論を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にある。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、生理的特性や動機づけ、及び作業行動の発生過程までを学ぶ。授業形態は講義を中心とするが、随時討議や実習も行い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： 組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	組織とは何か。組織の定義に始まり、組織構造、組織規範を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	動機づけを基にした目標管理制度の意味と、そこで用いられる PDCA サイクルの意味と、OJT や off-JT 等の研修の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面で発生するヒューマンエラーには、人間の生理的な特性も関与している。サーカディアンリズムとこれに連動する大脳覚醒水準の特性を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	事故や労働災害を減少するには、人間の行動の仕組みを知ることが不可欠である。我々の作業行動を理解することを目指し、作業行動モデルの作成を行う。ここでは集団ブレインストーミング法を用い、作業行動を考え合う。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
7	前回到引き続き集団ブレインストーミングを通じて得られた様々なアイデアを、KJ 法を用いてカテゴリ化を図る。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
8	前回到引き続き KJ 法で得られたカテゴリ間に関連性を持たせ、人の作業行動のあり方、プロセスの図化を試み、その後班ごとに発表を行い、作業行動の仕組みを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
9	用語としてのストレスの意味と使用方法の変遷、ストレスの構造とセリエの考えを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	精神的ストレスの定義、ライフイベント研究、ストレスの測定方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	ラザラスらが主張する心理学的ストレスモデルを学び、ストレスからの脱出方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、PBL 20分	
12	精神的ストレスを軽減するためのソーシャルサポート、THP、ストレスチェックの方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、職場安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	職場安全風土醸成を目指す集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 授業内で指示	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	租税法Ⅰ (Tax LawⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	郷原 廣行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 物の売買や金銭の授受など、経済取引をすると必ず種々の課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動することは自己の財産を守るために不可欠です。授業では、租税法の基本原則、租税判例、時事問題、課税事務の実例などを中心に講義します。									
授業目標： (1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考（租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力）の修得。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	租税及び租税法とは 租税法法律関係の特色					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
2	租税法の基本原則 1 租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
3	租税法の基本原則 2 租税公平主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
4	納税義務・課税要件・申告納税制度					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
5	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
6	租税法法律主義と租税法主義を争う憲法訴訟					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
7	申告納税制度と租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
8	通達課税と租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
9	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
10	課税要件と要件事実の認定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
11	所得税法Ⅰ 所得税の基本原則					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
12	所得税法Ⅱ 課税所得の分類					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
13	所得税法Ⅲ 所得税法の構造と計算の仕組み					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
14	所得税法Ⅳ 必要経費、所得控除、税額控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
教本： 「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。									
参考文献： 「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定									
成績評価の方法、評価基準： レポート、授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	租税法Ⅰ（Tax LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	柳 裕 治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：租税は経済生活のほとんどの局面に深い関わりをもつため、私たちは、通常、経済取引を行う場合、租税の問題を考慮することなしには経済的意思決定を行うことはできない。また、原則として、第一次的に納税者自らが課税標準及び税額を計算し、申告・納付しなければならないことから、当然に租税法を理解していることが要求される。そこで本講義では、租税法の基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて体系的に説明していく。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。									
授業目標： 租税法の基礎的知識・租税法的思考の修得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（租税法Ⅰ学修の概要）					事前：シラバス確認 事後：講義内容確認		講義	
2	租税法学修の実益					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	租税・租税法の意義及び隣接諸科学					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	租税法の法源と効力					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	租税法の基本原則(1)租税法主義					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	租税法の基本原則(2)租税平等主義					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	租税の解釈適用(1)租税法と私法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	租税法の解釈適用(2)信義誠実の原則					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	租税法の解釈適用(3)租税回避（節税・脱税・租税回避）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	租税法関係・租税要件					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	納税義務の成立・確定・消滅					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	租税手続法（申告納税・推計課税・税務調査等）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	租税救済法（再調査の請求・審査請求・訴訟）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	租税制裁法（附帯税・租税犯）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
教本：柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』財経詳報社（2023年9月） 租税法ⅠⅡは同じテキスト使用									
参考文献：適宜指定									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20％）、終了テスト（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 租税法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。特に所得税法・法人税法等について学びたい受講生は、租税法Ⅱを併せて履修することが望ましい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	租税法Ⅱ（Tax Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	郷 原 廣 行								
履 修 条 件	前提科目	租税法Ⅰ（Tax Law Ⅰ）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経済的取引や相続・贈与による財産の移転など、経済取引等を行うと必ず課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動することは自己の財産権を守るために不可欠です。授業では、法人・消費税・相続税法などの租税実体法を中心に講義します。また、所得税の確定申告の実務知識を修得します。									
授業目標： (1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考（租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力）の修得。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	基礎理論 租税法の基本原則と課税要件総論					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
2	法人税法Ⅰ 法人税の納税義務者と課税所得等の範囲等					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
3	法人税法Ⅱ 課税所得の基礎的計算構造					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
4	法人税法Ⅲ 益金と損金の計上時期・同族会社の行為・計算否認規定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
5	消費税法Ⅰ 消費税法の概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
6	消費税法Ⅱ 消費税法の計算の仕組み・控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
7	相続税法Ⅰ 相続税・贈与税の意義と概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
8	相続税法Ⅱ 相続税法の構造と計算の仕組み（法定相続分課税方式）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
9	相続税法Ⅲ 相続税法の構造と計算の仕組み（税額の算定）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
10	相続税法Ⅳ 相続財産の評価と問題点					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
11	相続税法Ⅴ 贈与税の課税財産					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
12	租税手続法の構造・適用 租税回避行為・更正の請求					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
13	法人税・消費税・相続税のまとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
14	所得税法Ⅴ 所得税の確定申告（確定申告作成の実務）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
教本：「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。									
参考文献：「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「法人税法講座」中江博行(著)、岸田貞夫(監修) 「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定									
成績評価の方法、評価基準： レポート、授業参加状況等（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	租税法Ⅱ（Tax Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	柳 裕 治								
履 修 条 件	前提科目	なし（租税法Ⅰの単位取得が望ましい。）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 租税法Ⅰの履修を前提に、租税実体法、特に所得課税制度の基礎である所得税法・法人税法、さらに消費税法・相続税法に関する基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて説明する。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。									
授業目標： 所得課税制度等の基礎理論と実践の修得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（租税法Ⅱ学修の概要）					事前：シラバス確認 事後：講義内容確認		講義	
2	所得税の意義と所得税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	所得概念・課税単位・納税義務者等					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	給与所得・退職所得・山林所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	譲渡所得・一時所得・雑所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	損益通算・所得控除・税率・税額控除・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	法人税の意義と法人税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	益金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	損金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	同族会社の所得課税					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	企業会計と課税所得計算・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	消費税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	相続税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
教本： 柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』財経詳報社（2023年9月） 租税法ⅠⅡは同じテキスト使用					参考文献： 適宜指定。 柳裕治編著『税務会計論（第4版）』創成社（2023年4月）				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20％）、終了テスト（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 租税法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									